

「生涯活躍のまち」第4回事例紹介セミナー 資料

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業

岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

「少子化対策地域評価ツール」を活用して

2024.10.02

<u>01</u>	バックアップ事業概要	2
<u>02</u>	事業検討フロー（ワークショップフロー）概要	9
<u>03</u>	各市町村の取組内容、実施事業等	36
<u>04</u>	成果報告会の概要/様子	101
<u>05</u>	成果や課題を踏まえた来年度の進め方	104

01

バックアップ事業概要

岡山県の概要

山陽道の中央に位置し、東は兵庫県、西は広島県に隣接。南は瀬戸内海を臨んで四国に、北は山陰地方と接しており、中四国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にある。

総面積	7,114.77 km ²
総人口	1,865,478 人 (R5.1)
世帯数	866,346 世帯 (R5.1)
合計特殊出生率	1.39 (出生数12,371人) (R4)
未婚率 (25~39歳)	<u>男性</u> 48.4 % <u>女性</u> 37.2 % (R2)
有配偶出生率 (15~49歳)	76.9 % (R2)
特徴	降水量1mm未満の日数が全国1位で、「晴れの国」と呼ばれるほど晴れの日が多い



実施の背景と目的

市町村が抱える課題

- ・少子化対策を担う部署や部局横断的組織がない市町村も存在
- ・担当者は多岐にわたる業務を兼務しているため、少子化対策に十分なリソースを割けない
→少子化の要因分析ができていない、対策を検討する人的な余力がない等の課題が頻発
- ・事業構築や交付金活用等のノウハウの蓄積が少ない

県が抱える課題

- ・出生率等に関連する指標の状況は地域によって大きく異なるため、要因や課題にも地域差があり、画一的な対策では限界がある
- ・市町村に比べ、地域の実態に即した対策の実施が難しい
- ・少子化対策は、「できることは、すべてやる」という強い意志で取り組みたい



実施目的

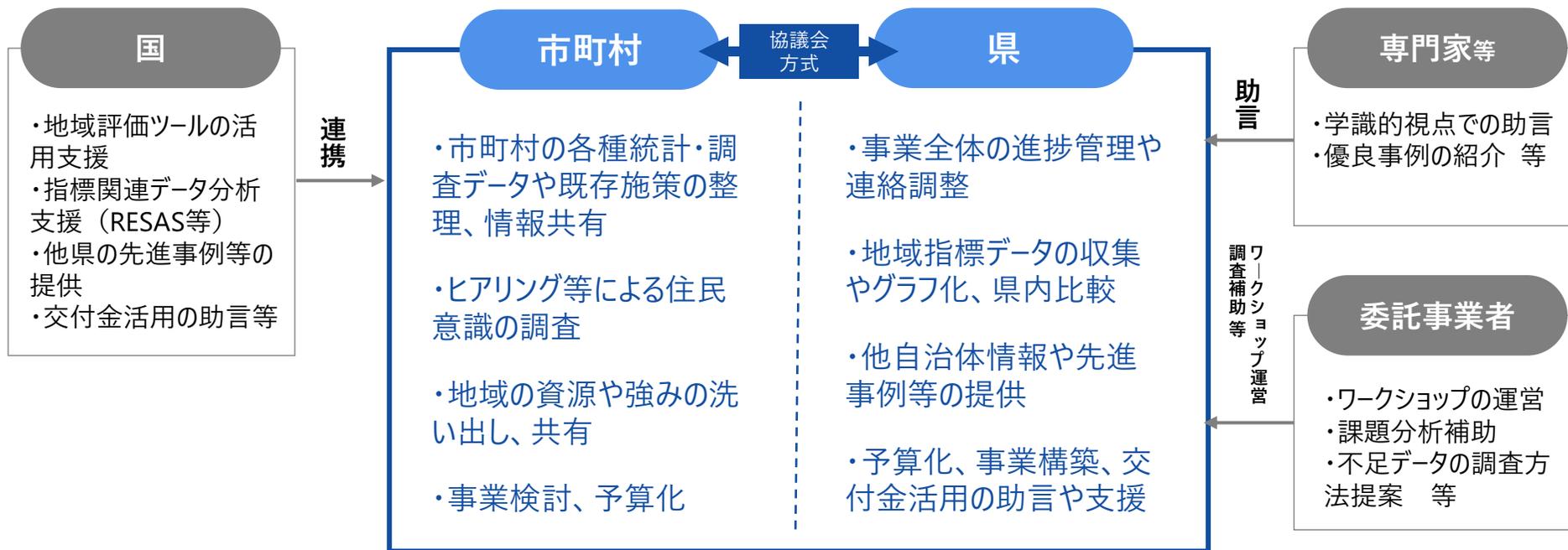
少子化の要因や課題は地域によって異なるため、県と市町村が力を合わせて、少子化の要因等を分析し、オーダーメイド型で対策を検討することにより、**各地域の実情に応じた効果的な少子化対策の推進**を図る。

実施体制と役割分担

国、専門家、委託事業者とも連携することで、県や市町村だけでは不足しているリソースやノウハウをカバーできるバックアップ体制を構築

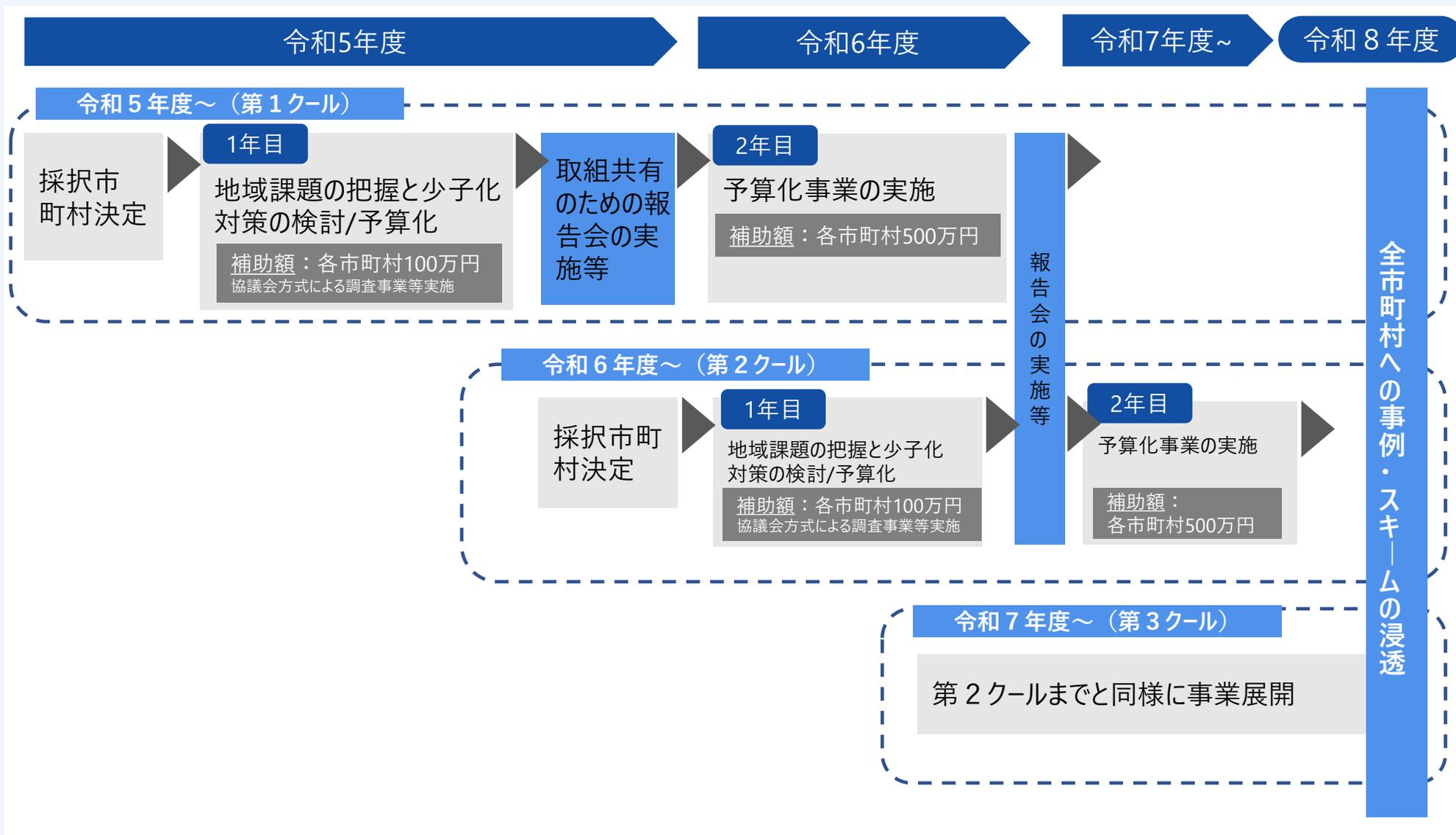
実施体制図

県と市町村の連携による地域課題の把握と少子化対策検討



事業展開（ロードマップ）

1クール(2年間の伴走支援) × 3クールで実施し、県全域への事例・スキームの浸透を目指す



参加メンバー

各市町村複数の課・役職、横断型のチーム組成を行い事業検討を実施

玉野市	福祉政策課	主幹
	福祉政策課	室長
	健康増進課	課長補佐
	総合政策課	主任
	総合政策課	主事

瀬戸内市	こども家庭課	課長
	こども家庭課	参事
	こども家庭課	主査
	こども家庭課	主事
	企画振興課	主幹
	企画振興課	主査

奈義町	こども・長寿課	副参事
	こども・長寿課	副参事
	情報企画課	参事
	情報企画課	主事

美咲町	こども笑顔課	課長代理
	こども笑顔課	上席主事
	地域みらい課	主事
	地域みらい課	主事

矢掛町	教育課	係長
	企画財政課	主査
	健康子育て課	主幹
	健康子育て課	子育て 福祉相談員

岡山県	子ども未来課	少子化対策班
	備前県民局	福祉振興課
	備中県民局	福祉振興課
	美作県民局	福祉振興課

委託事業者	(株) 大広
専門家	(株) 出島プランニング

国 (オブザーバ)	内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局（女性活躍少子化班、BDT） こども家庭庁長官官房少子化対策室、中国経済産業局
--------------	---

心がけたこと

今回の事業を進めるにあたり、心がけたこと。

- ✓ 「言うだけ伴走」にしない
- ✓ 各市町村の自走を目指す
- ✓ 市町村との関係性を深める

02

事業検討フロー（ワークショップフロー）概要

検討フローの考え方

事業検討は「少子化対策地域評価ツール」を活用した「地域アプローチ」を前提にしつつ、分野横断・EBPMといった本ツールの狙いや価値が最大限発揮されるよう、一部カスタマイズをしたオリジナルフローにより実施

「地域アプローチ」による少子化対策の取組プロセスについて

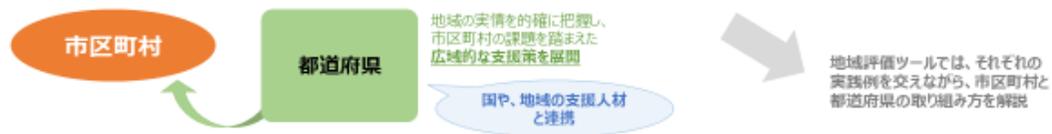
少子化対策地域評価ツールでは、地方公共団体による「地域アプローチ」による少子化対策の取組を6つのSTEPに分割して紹介しており、それを支える都道府県の役割についてもまとめている

- ✓ 地域評価ツールでは、「地域アプローチ」による少子化対策の取組について、市区町村が行う場合を想定してSTEP1～6にわけて各プロセスでの取り組み方や実践事例を紹介しているほか、それを支える都道府県の役割・取組内容についてもまとめている

「地域アプローチ」による取り組み方について



分業横断的なプロジェクトチームで設定した実行計画に沿って、出生に関連する地域の様々な指標のデータや、アンケート・ヒアリング等を活用して洗い出した地域ごとの課題について、地域の資源・強みなどを活用しながら、地域の様々な主体との協働によって、地域の実情に応じた少子化対策の取組を実施！



検討フローの重視点

検討フローは、以下4つの視点を重視し「少子化対策地域評価ツール」をカスタイズ

- ✓ 参加メンバーの**当事者意識の醸成**に重きを置いたワーク設計
- ✓ 課題の**連鎖性**に着目した各地域の**独自課題の構造的把握・見える化**の実施
- ✓ 住民の思い/課題/欲求を何よりの起点においた、「**住民中心発想**」による事業開発
- ✓ 誰もが活発的に意見・アイデアを交わすための**ディスカッション活性化**に向けた仕掛けづくりと展開しやすいフレームづくり

検討フローの全体像と各日程の目的

計6日のワーク（各回 3 時間程度）とインタビュー調査、各回のホームワークにより事業検討を実施

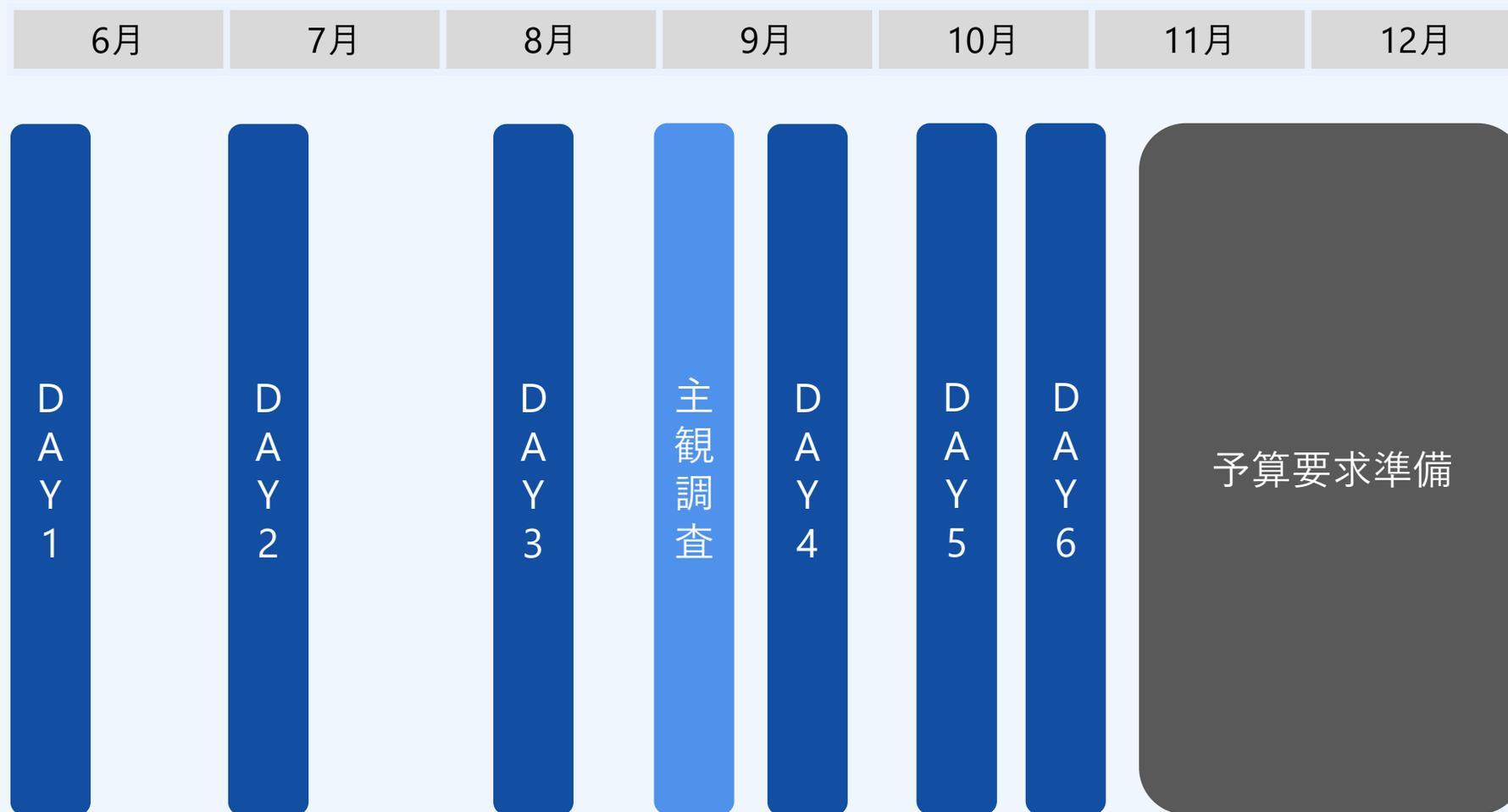
少子化対策
地域評価ツール
の該当STEP



- Day1**
 - ワンチームでのプロジェクト進行・事業検討していくための**共通認識づくり**
 - 主体的・積極的な関与を促すための**当事者意識の醸成**
- Day2**
 - 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
 - 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**
- Day3**
 - 取り組むべき課題の達成に向けた**探索事項（インタビュー設計）の決定**
- 主観調査インタビュー**
 - 住民の**思い・課題・価値観の探索**
 - 住民の声を起点とした、**課題解決方向性の探索**
- Day4**
 - 住民の声から見てきた**課題解決方向性（解決すべき事象）の整理/設定**
- Day5**
 - 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**
- Day6**
 - 効果・実施難易度を踏まえた**優先検討事業の設定**
 - 今までの議論内容の整理に基づいた**簡易事業計画の作成**

検討スケジュール（令和5年度（第1クール））

※令和6年度（第2クール）以降はスケジュール前倒しで実施



Day1のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day1のゴール

- ワンチームでのプロジェクト進行・事業検討していくための**共通認識づくり**
- 主体的・積極的な関与を促すための**当事者意識の醸成**



ワーク内容

プロジェクト説明

プロジェクトの実施背景や全体像、計6回の進め方に加え、大事にしていきたい考え方や姿勢なども説明し次回につなげた。

「SDGs de 地方創生」体験

持続可能な地域のつくり方を理解するゲーム型プログラム「SDGs de 地方創生」(©issue+design)を実施。

本プログラムを通し、

- ・地域課題は複雑に絡み合い連鎖している点
 - ・地方創生には様々なセクターとの対話・協働が重要な点
 - ・自らの行動・選択1つでまちを変える力を持っている点
- 等を体感してもらうことで、その後の5回のワークショップの根幹となる考え方のインプットおよび、共通認識の獲得を狙った。

Point

- ・ 今後の事業検討の根幹となる考え方や姿勢を、**ゲーム型プログラムを活用することで“体感”してもらう**
- ・ あえて5市町混在したチーム編成でコミュニケーションが必須なプログラムを実施することで、**アイスブレイクを兼ねながら市町を飛び越えたPRJメンバー全員の一体感の醸成**をしていく

(参考) SDGs de 地方創生概要



「SDGs de 地方創生」とは...

特定非営利活動法人イシュープラスデザインが開発したSDGsの考え方を地域の活性化に活かし、地方創生を実現する方法について参加者全員で対話し、考えるためのゲーム。

規定の研修を受講した公認ファシリテーターのみが本ゲームを活用したワークショップを実施できる。

<https://sdgslocal.jp/>



ゲームの3つのポイント

POINT①

行政担当者、または住民として



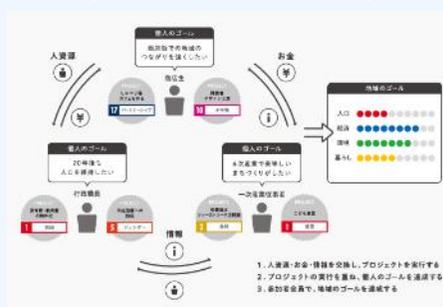
SDGs de 地方創生ゲームの参加者は各地域で活躍するプレイヤーにわとしてそれぞれの役割を演じていただきます。行政担当として4つの役割があり、まちで活動する市民として12の役割があります。

行政担当者には毎ターン予算が配られ、まちを良くすることをゴールとして提示されます。まちで活動する市には、使える予算は限られていますが、代わりに普段の活動を通じて得られる人脈があります。

どのように活動し、どのようにまちに働きかけていくか。それはゲームに参加する参加者ひとりひとりに委ねられています。

POINT②

まちの現状をあらわす4つの指標



SDGs de 地方創生ゲームではまちの状態は「人口」「経済」「環境」「暮らし」という4つの指標で表されます。何も具体的な対策をしないでいると、人口は徐々に減少をはじめます。

経済はまちの財政に影響を与え、まちに緑が少なかったり、暮らしやすいまちでなければ、様々な施策をしても十分な効果を発揮しません。

20年後も豊かに過ごせるまちとなるのか、それとも残念ながら消滅可能性が高い都市になるのか。それはゲームに参加したプレイヤーひとりひとりの行動によって千変万化いたします。

POINT③

まちを彩る具体的なアクション



しかし、具体的にそれらの施策を実践したときにどのような効果が生じるのか、プレイヤーには明かされていません。まちに良い影響をもたらすのか、期待はずれにおわるのか、はたまた、まちにネガティブな影響をもたらしてしまうのか。。自分の行動一つ一つがまちに与える影響を考えながらプレイして頂く必要があります。

また、まちの状況によっては、かつてはできなかったアクションができるようになった、そんなことが起こり得るように作成されています。

Day1の様子

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Day2のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day2のゴール

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

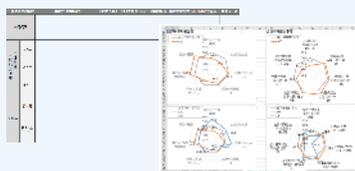
▽

ワーク内容

ホームワーク

地域指標に基づいた地域特徴・課題仮説・現状の取り組みの整理

少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、各分野の地域特徴・課題仮説・取り組み状況を整理する。



少子化対策イシューマップの作成

ホームワークで各市町村が整理してきた情報のうち、地域課題に関する項目を付箋に記入し「少子化対策イシューマップ」(p.16参照)に配置する。イシューマップ全体を俯瞰しながら、関係する情報に矢印を引き、それぞれの相関関係を整理することで、個々の課題がどのように連鎖し少子化に影響を与えているか、客観的指標がそれぞれどのようにつながっているのかを構造的に把握する。

取り組むべき課題と探索の問いの設定

完成した「イシューマップ」から、現在の対策の有無や客観的指標から読み取れる深刻さ、結び付く課題の多さなどをもとに、各市町村として取り上げたい、解決したいと考える起点となる課題を選定する。
その課題の解決のために、どのようなことを考えるべきか、課題/問いのリフレーミング (p.17参照) という手法を活用し問いを広げていくことで、「探索の問い」を設定する。

Point

- 地域指標を別々でとらえるのではなく、その**つながり/連鎖性を意識しながら構造化**することで、市町村の課題・現状を精緻に把握する
- イシューマップをもとに着目する課題を**早い段階で意志をもって決める**ことで、課題の探索に時間を使う(着目はしなかったが顕在化している地域課題については各市町独自で対策を検討)

(参考) 少子化対策イシューマップ概要



「少子化対策イシューマップ」とは...

少子化対策地域評価ツールの客観的指標に定められている、「出生に関する指標」「地域指標（「賑わい・生活環境」「家族・住生活」「地域・コミュニティ」「医療・保険適用」「子育て支援サービス」「働き方・男女共同参画」「経済雇用）」を関連性の高いもの同士が近くなるよう円状に並び替えたマップ。

※SDGs de 地方創生「SDGs イシューマップ」©issue+design 2019 を参考に株式会社大広で作成



「出生に関する指標課題」を赤色、「地域指標課題」を黄色、「地域指標課題の結果起こる、住民の”課題や欲求”」を青色の付箋で配置し、それぞれのつながりを整理することで、地域課題を構造的に可視化できる。

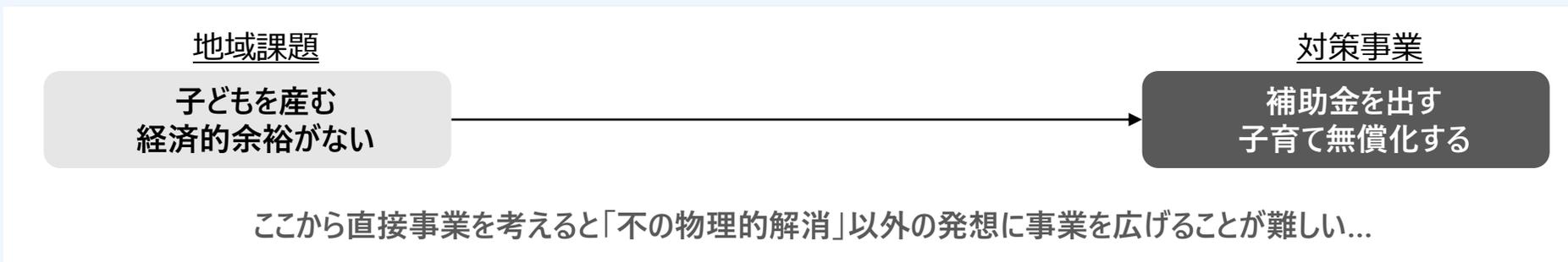
(参考) 課題/問いのリフレーミング



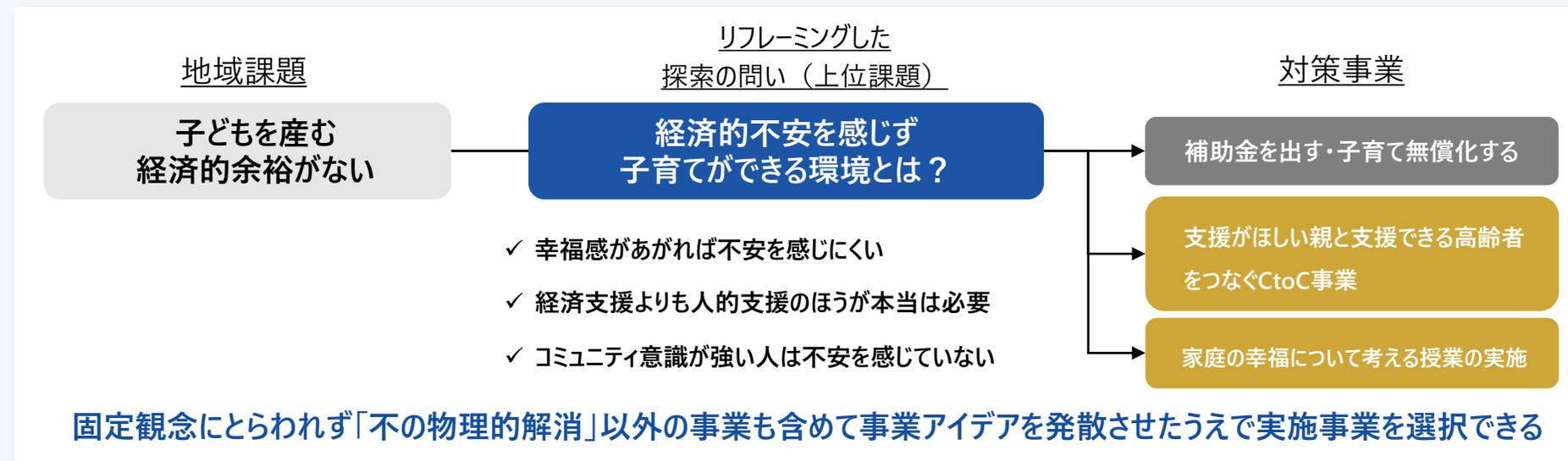
「リフレーミング」とは...

ある枠組み(フレーム)で捉えられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見ることを指す。解決すべき指標の直接的解決を起点の問いにしなから、その問いを枠組みを外して考え直すことで、固定観念にとらわれた課題設定にならず、柔軟な事業検討が可能になる。

【リフレーミング前】



【リフレーミング後】



Day2の様子

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Day3のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day3のゴール

- 取り組むべき課題の達成に向けた**探索事項（インタビュー設計）の決定**

ワーク内容

ホームワーク

少子化対策イシューマップおよび探索の問いの役場内追加議論

Day2で作成した少子化対策イシューマップや探索の問いについて、役場内に持ち帰り共有をし、参加メンバー以外も含めて再度庁内で議論を深めブラッシュアップする。



調査で明らかにしたいことの検討

Day2で設定・解決したい地域課題や探索の問いをもとに、主観調査（インタビュー調査）で明らかにしたいことを探索的な視点、検証的な視点の両視点から検討。手段ではなく、目的を起点に調査を設計する。



調査対象者の決定

明らかにしたいことを整理したうえで、それを誰に聞くのが最適か対象者を議論する。その際、理想的な対象者の条件と、現実的に集められそうな緩和条件を検討し、調査の目的達成と現実的なリクルーティングをイメージする。



聴取項目/対象者の
深堀・絞り込み

今まで議論した明らかにしたいこと、対象者の中で探索の問いと照らし合わせ優先度が高い者を絞り込む。合わせて、住民は必ずしも答えを言語化できていないという前提に立ち、明らかにしたいことを引き出し、考察するためにどのようなことを聴取すべきか、聴取項目を深掘りする。

調査設計の検討は適宜調査視点をインプットしながら実施

Point

- 解決したい地域課題や探索の問いをベースに明らかにしたいことをまず検討することで、**目的起点で主観調査を設計する**
- 住民が必ずしも答えを言葉にできないという前提の中で、**明らかにしたいことを引き出す・考察する**という視点で聴取項目を設計する

(参考) 調査視点インプット資料例



調査目的の大別

探索型リサーチ

検証型リサーチ

**いままで知らなかった
新しい洞察や気づきを得ることを
目的としたリサーチ**

**自分たちの仮説が誰にどれくらい
支持されるかを明らかにすることを
目的としたリサーチ**

住民の行動実態や思いを聞き出し、本当に抱えている課題や欲求を探索することで、「このように着目して事業を検討すべきなのでは?」「このような事業がうまくいくのでは?」という仮説をつくりあげることにつなげる

「住民の課題はこうなのではないか?」「このような対策をすれば住民の課題は解決するのではないか?」という自分たちの仮説を住民にあて、その反応を見ることで、仮説の受容性やターゲットを明らかにすることにつなげる

©Copyright © 2021 DAIKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

調査目的の大別と調査手法

探索型

検証型

デプスインタビュー	グループインタビュー	アンケート
対象者とインタビュアー 1対1で深堀をしていく調査	3~5人程度の対象者グループに 座談会形式で行う調査	定型的な質問に対する 大人数の回答を収集する調査
<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人の対象者を深堀することができ、潜在的な欲求や課題を探索しやすい 欲求や課題の根拠まで聞くことができる <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞ける人数に限りがある 選定した対象者の質に左右される 	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回で多くの人の声、意見を集めることができる 対象者同士の議論により新しい視点が出てくる可能性がある <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1人の話を丁寧に深堀することができない 潜在的な欲求や課題を探索しにくい 周りの意見に同調してしまいうケースがある 	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回で大人数の回答を得ることができる 統計的な分析ができる定量的データを獲得できる <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答の意図や文脈を把握することは難しい 定型的な質問しかできないため、新しい気づきを得ることは難しい

©Copyright © 2021 DAIKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

調査対象者の考え方②

充足ユーザーと欠乏ユーザー

結婚や子育てに満足している、幸せを感じている「充足ユーザー」(目指すべき像)と結婚や子育てに不満を感じている、課題を感じている「欠乏ユーザー」(救うべき像)それぞれから話を聞くことで問いを探索していくために必要な視点を得ることができる

充足ユーザー



(質問例)

- どのような瞬間に幸せを感じるか
- 子育てがいつから楽しくなったか
- どのような価値観を持っているか

欠乏ユーザー



(質問例)

- 何が子育てのネックになっているか
- 理想と現実のどこにギャップを感じるか
- どこに不満があるか

©Copyright © 2021 DAIKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

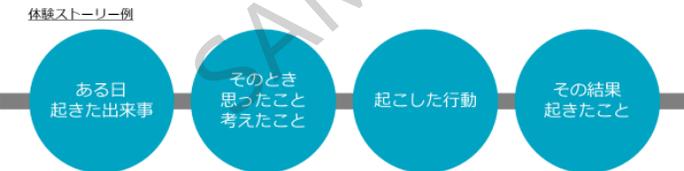
聴取項目の考え方③

住民の体験ストーリーを引き出す

インタビューでは1問1答のような単発の質問を繰り返すのではなく、何が起きて、そのとき何を考え、その結果どうなったのかというストーリーで話を聞くことで、住民の方々の生活や行動の背景にある文脈を考察することができたりします。

意見・意志・理由などはなかなか答えづらい項目が多いので、ある日の体験(事実)を起点にしたストーリーから住民の考え方を引き出すことを意識して項目を考えてみてください。

体験ストーリー例



©Copyright © 2021 DAIKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

Day3の様子

STEP1

STEP2

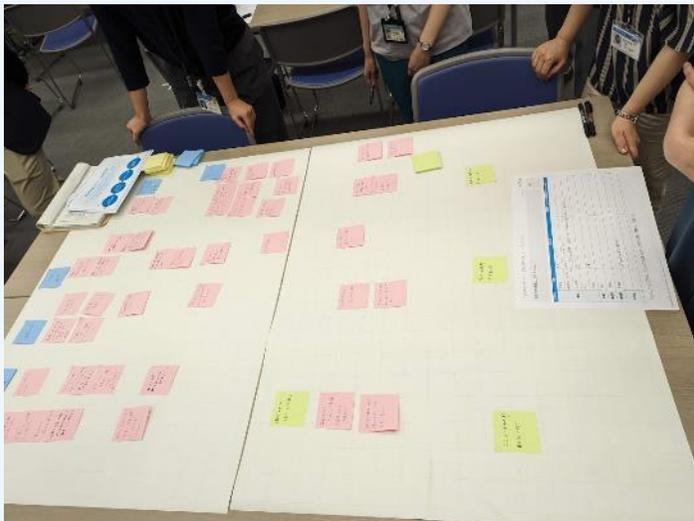
STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



主観調査 インタビューのゴール

- 住民の**思い・課題・価値観**の探索
- 住民の声を起点とした、**課題解決方向性**の探索



ワーク内容

設計に基づいたインタビューフローの作成

Day3で検討した調査設計に基づき、どのような順番・時間配分で、どのように話を深ぼるかのインタビューフローを作成。結婚観や子育て観など場合によっては、センシティブな内容になるため、住民の方へ最大限配慮しつつ、聞き出したいことを引き出せるフローを検討。

住民インタビューの実施

調査設計・インタビューフローに基づいて住民インタビューを実施。
(場所は保育園・子育て支援センター・役場などで実施)
住民の方へ寄り添いながら、生活の実態や価値観をはじめ、結婚や子育てに関する思いや課題・不満など本音を引き出すインタビューを実施。

令和5年度は、5市町で**計54名**へのインタビューを実施

発言録、インタビューサマリーの作成

インタビュー発言をすべて文字に起こした発言録とインタビュー内容の中心的な発言をまとめたインタビューサマリーを作成。その後のワークショッププロセスに活用。



Point

- モデレーター（インタビュー司会者）は住民の皆さんの味方である姿勢を貫き、**日々抱えている本音**を話しやすい場づくり・雰囲気づくりを行う
- 市町に対する評価・要望だけでなく、**住民一人ひとりの生活（子育て）の様子や結婚や子育てに対する価値観/理想像など語り**を重視し聞き出すことで本当に求めていることを考察する示唆を得る

(参考) サマリーイメージ

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

調査概要

調査目的 (全体)
地域課題を解決する少子化対策事業を検討するにあたって、気づき・ヒントとなる示唆を住民の声から得る

設定している探索のための問い
美咲町での子育てはなんとかなると思ってもらうためにはどうすればよいか

(とらえた地域課題) **第2子合計特殊出生率が低い**
→ちゃん子育てできるかわからないという不安を抱えているという仮説のもと、その不安を払しょくしなんとかなると思ってもらい第1、2子以降を産んでもらうことを目指す

対象者
①美咲町で子育てをされている方
②美咲町出身で転出して子育てをされている方

調査方法
①グループインタビュー (90分程度)
→3~4名×2グループのインタビューを実施
②デプスインタビュー (60分程度)

聴取項目

- ・子育て実感について
 - 子育てをしてうれしいう瞬間
 - 子育てにおける負担・不安
 - 理想の子育てについて
 - 美咲町の子育て環境
- ・子どもの人数について
 - 理想の子どもの人数

©Copyright 2023 DAKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

第3回発言サマリー：対象者プロフィール

MR	性別：女性 家族構成：夫、長男（4歳）、次男（2歳）長女（4か月）、祖母、両親、妹家族（計11人同居） 出身：美咲町 最近ハマっていること：おいしいものを食べに弾丸旅行
OK	性別：女性 家族構成：夫、長女（3歳）、長男（5か月） 出身：磐城郡（結婚して津山に来て、家を建てるときに美咲町に）※夫の実家は楢原 最近ハマっていること：旅行（白川郷がおすすめ） ※途中退席
AK	性別：女性 家族構成：夫、長男（中1）、次男（小5）、長女（2歳） 出身：美咲町 最近ハマっていること：音楽（櫻子が好き）

※氏名は個人情報保護の観点から報告書上は記号化

©Copyright 2023 DAKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

第3回発言サマリー：子育て実感について

	子育てにおける幸せ	子育てにおける苦労・不安
MR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抱っこしたことが特感がかって通っていて、成長しているを見る。毎日書いていることが無敵じゃなかったんだと思える ・ 毎日自撮りとかに書いていた。「どんなのでも大好きだよ」という言葉を覚えていて、夫が食卓のことで悩んでいるときに、食卓が夫のところに行き「おちゃん、大丈夫、どんなおちゃんでも大好きだよ」と言ったのを聞いたとき嬉しかった →毎日自撮りがなく、怒っちゃうことも多いから夫大好きだよと伝えることは意義的にしていたためそれが書いていたのを知りうれしかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あんなこと言わなければよかった。もっと違う言い方できたのかなと思った後悔の連続になってしまう →赤ちゃんを抱っこしているときと2歳の子どもとわたりついている時、1歳上の子ども自分だけを見てほしいと思っているから、物理的に体が足りずしんどいと感じてしまう ・ 寝かしつけようと思っても寝なくて、子どもの寝相が良かったりして、取り戻すのがめんどいこともあって →胎前産後から、そこはフオロしてもらっている ・ 口癖が「お前のままだよ」という言葉がある →子どもが怒鳴るような言葉はとやまらなくてほしい
OK	<ul style="list-style-type: none"> ・ いるだけで幸せだが、保育園とがに混入して「ママ」って呼んで駆け寄ってくるのがかわいい →昨日も夫と昔の写真を見て改めて、明日も頑張ろうと思えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下の子が泣くと上の子ども泣き出しがまってと泣いてくるため、この人同時期に泣いているときが大変 →その日の夜も、なんで今なのと聞いて泣き喚びで寝たりしてしまい、次の朝ってしまったことへの後悔で落ち込んでしまう →そのときは母親があれは夫に話したり、書いてある紙に書き留めておいておきたい ・ この数年でも思ったよりお金がかかっており、精神的に楽なとお金の不安がある ・ 子どもを産めと聞かされたけど、その子どもが生まれる日本の早さどうなんだろうという疑問とした不安もある
AK	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番はかわいい。笑顔がとかじゃなくあらゆる行動がかわいい。 →この子たちのために頑張ろうと思える →夫とも子どもとのことを共有している中で、同じ方をしていると思う →夫とも子どもとのこと話し合っていないから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったりしたときに、自分が悪くて子供は悪くないのといつも反省してしまう ・ 自分自身がない、好きなことできないことは辛い ・ 3人ほららの生活で、学校の行事や習い事など調整するのが大変 ・ 悩んだときは夫は聞き出しけど、夫と話し合ったり、いる人なしの意見をもらう →最初の子どもは産んでずっと見ており、自分があるから自分でやらなきゃと誰にも相談せずにしていたが、心身壊れてしまった ・ これからはより負担が多いから、いろいろな記録を残して置きたいと思う

©Copyright 2023 DAKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

全体 まとめ

子育てにおける幸せ	<p>自分のおなかから生まれた我が子だからこそ、存在自体が価値 →まさに自分のおなかの中から出てきたわが子だからこそ、その存在自体がわたく、多くのこと自体が幸せだと感じており、そのわが子が自分が育ててくれているという使命感を持っているお母さんが多い、一方でそこへ夫（父親）との意識や責任の差を感じている方も多い</p>
理想の子育て像と子育ての苦労・不安	<p>高い理想からくる自己嫌悪を覚えながら、即座に育児と格闘している →母親なんだからこうでないといけないという理想や子どもにこうなってほしいという理想を強く持っているからこそ、強く言いすぎたり、感情的になってしまう自分が嫌悪を感じながら育児をしている方が多い。さらに、夫が家にいる時間が少なく、協力できない家庭も多いようである自己嫌悪と夫と格闘しているお母さんの感情が見られた。</p> <p>子育てパートナーとしての夫（父親）に感謝感がない方も… →一人育児と闘いながらも、夫とコミュニケーションがとれており、話せることが変えになっている家庭がある一方で、夫が子育てに興味を示さない様子を見ているからこそ、期待していない・相談する相手ではないと感じているお母さんも多かった。</p>
美咲町の子育て環境	<p>制度・施設には満足しているものの、病院・店・遊び場などの生活環境には不満あり →支援センターや育児手当てなどの支援などには助かっているという声が多く見られた一方で、病院やドラッグストアや小さい子どもでも遊べる場所が町内に欲しいという生活環境への不満は多く見られた。→生活環境や施設に関しては、中央地域と楢原地域による地域差もみられた。</p>
子どもの人数	<p>子どもが2人くらいはほしいと理解しつつも、育てる余裕がない →子どもが2人くらいはほしいという声は多く聞かれたが、子育ての負担が1人増えることは現実的ではないと思われている方が多い。また子どもに好きなことをやらせたい、よく育ってほしいという思いがあるからこそ、自分の育てる範囲は2人までと思っている方もいる様子。</p>

©Copyright 2023 DAKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

Day4のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day4のゴール

- 住民の声から見てきた課題解決の方向性（解決すべき事象）整理/設定



ワーク内容

ホームワーク

発言録から気になった発言をマーキング

インタビュー調査の発言録から、個人的に興味をもった/面白いと思った/新しい気付きがあった/重要だと思った...発言・データについてマーキングしてくる



インタビュー内容の構造化

マーキングしてきた発言について、住民個人の「喜び・幸せ」「問題・課題」「願望・理想」とまち自体の「良さ・魅力」「問題・課題」「要望・理想」に分け、配置。その背景が似ているものをグループにしなが、グループ間の関係性を整理することでインタビューを構造化していく。



解決課題カードの作成

構造図から、事業検討にあたり着目したい/重視したい課題や欲求をマーキングし、その課題や欲求をなぜ重視すべきなのか、その背景にどんな思いがあるのかという議論をもとに、事業を通して“誰”の“何”を解決するのかという「解決課題」をカードとして整理する。



Point

- インタビュー結果をひとくくりの概要でとらえるのではなく、1つ1つの生の発言を重視した構造化・示唆だしを行う
- 住民主語で抱えている課題、目指すべき理想の姿を検討することで、“誰”の“何”を解決する事業をつくるのか明確にした「解決課題」を設定する

(参考) 解決課題カードについて

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ

事業ターゲット（ペルソナ）とそのターゲットが抱える問題・課題・欲求、そのターゲットの目指すべき理想的な状態を整理するためのカード。

解決すべき課題を住民の問題に置き換えて検討することで、住民中心発想の事業開発の起点として活用していく。

解決課題カード

市町

ペルソナ（事業ターゲット）

性別	年齢	その他特徴
----	----	-------

状況

抱えている問題・課題・欲求

住民/まちの理想の状態

©Copyright 2023 DAIKO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

Day4の様子

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Day5のゴール

- 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**

ワーク内容

ホームワーク

地域資産カード作成

Day4で設定した解決課題も踏まえながら、各市町村の活用できる地域資産や地域の強みを洗い出し、地域資産カードを作成する。地域資産は施設や制度、サービスなどのだけでなく、文化・風土・雰囲気なども洗い出す。

解決課題起点のアイデア出し

イシューマップ・インタビュー結果に基づいて作成した、解決課題カードをもとに、ストレートに考えられる事業アイデアについて、既存事業の改善アイデア、新規事業アイデアの2つに分けながら構想する。

地域資産起点のアイデア出し

地域資産カードをもとに地域資産を活用できることや現在足りていない要素を考えながら、さらに事業アイデアを構想する。その際に、この資産を使ってこの課題を解決しようと思ったら何ができるかという「**強制発想法**」を使ってアイデアだしも行う。



事例からの気づき起点のアイデア出し

全国の自治体・企業の取組を整理した事例カードをもとに、先進事例等の視点を共有し、さらにどのような事業が考えられるか構想する。事例カードをそのまま転用・利用できないかという考えだけでなく、**考え方の活用や、既存事業と組み合わせ**できないかという視点で事業アイデアを構想する。

Point

- 解決課題・地域資産（強み）・事例をカードにして情報を整理することで、その場ですぐ理解できる取得しやすい情報であり、自由に動かせる扱いやすい情報にすることでアイデア発想をしやすくする
- 解決課題・地域資産・事例を一気に提示するのではなく、段階的に提示することで、アイデア発想が止まりそうなタイミングの新たな情報刺激とすることができ、発想の広がりを助ける

(参考) アイデアだしワークシート

STEP1

STEP2

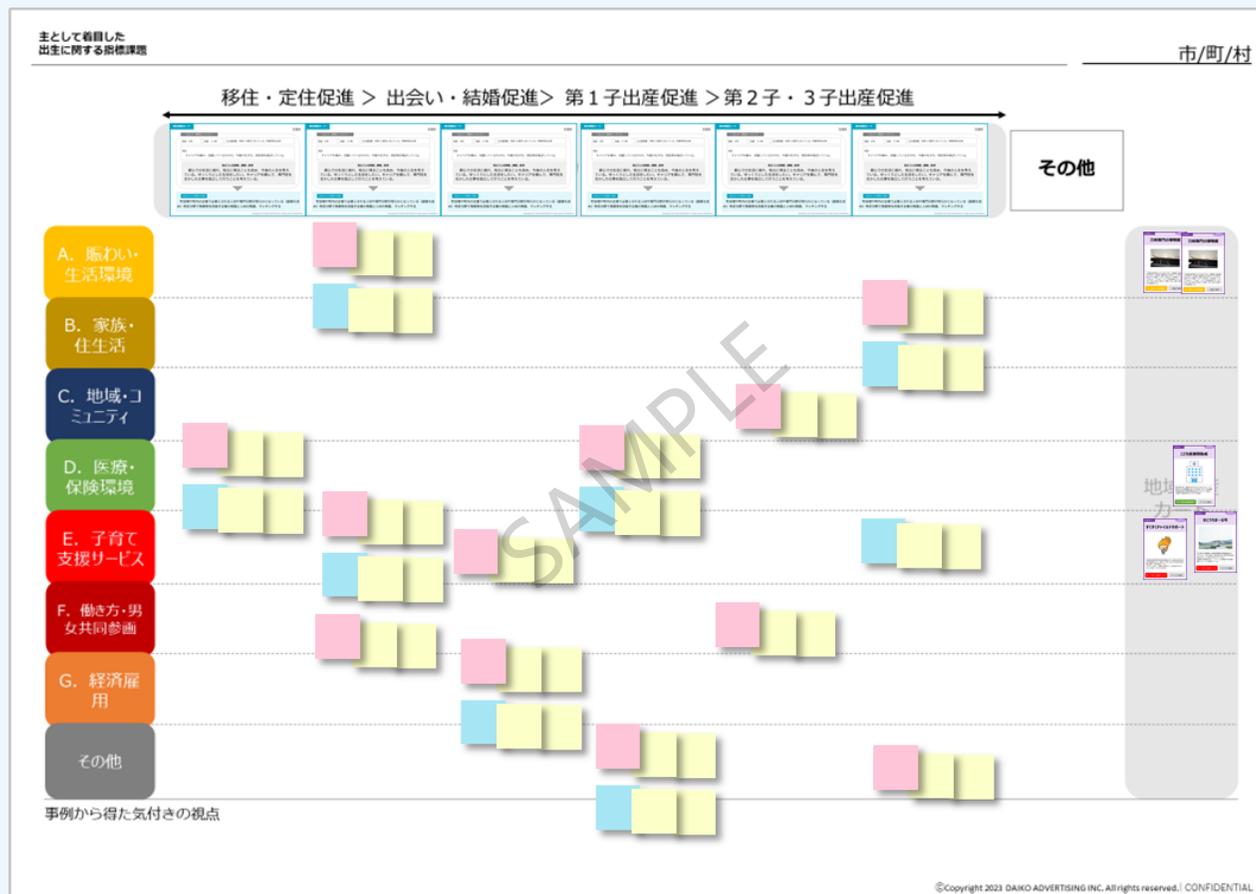
STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

縦軸に少子化対策地域評価ツールの「地域指標」、横軸に「解決課題カード」を配置し、それぞれ該当する事業アイデアを新規事業、既存事業の改善を色分けしながら付箋で記載していくことで、常に住民の課題を意識しながらアイデアを発想することを意識できる。



Day5の様子

STEP1

STEP2

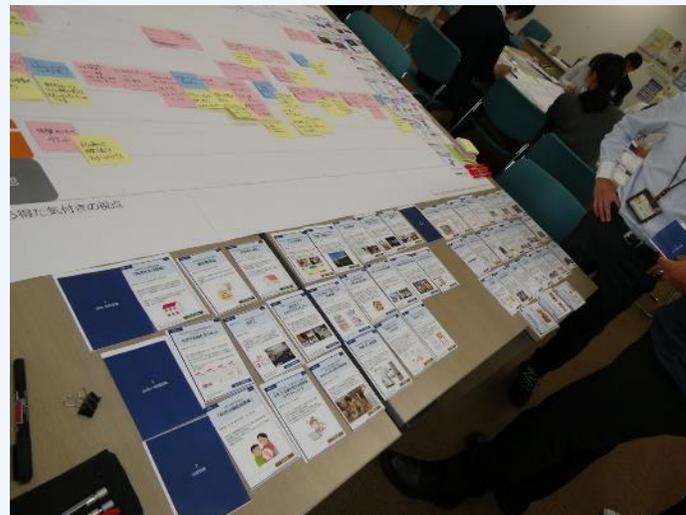
STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Day6のゴール

- 効果・実施難易度を踏まえた**優先検討事業の設定**
- 今までの議論内容の整理に基づいた**簡易事業計画の作成**

ワーク内容

ホームワーク

実施検討事業案リストの作成

Day5で構想した事業アイデアについて、改めて確認をした後、実施したいもの/予算化に向けて動き出したいものについて整理・リスト化を行う。パッケージとして実施していくことが重要であるため、予算要求が通るかどうかはさておき、実施に向け動きたい意志があるものはリストとして整理をしていく。



優先検討事業の選定

ホームワークでリスト化してきた事業案を、「実現難易度」×「効果（インパクト・持続性）」のマトリックス整理し、実施の優先度を選定する。



今までの議論内容に もとづいた選定事業の整理

選定した事業案について、今まで議論してきた内容や背景、とらえたい課題等を整理し簡易事業計画書を策定する。計画書をワークショップ内での最終アウトプットとして活用しながら、予算要求の準備を進める。



Point

- 「実現難易度」×「効果（インパクト・持続性）」を議論しながら、各市町自分たちの意志として**検討事業の優先順位**を策定する
- “今までの全6回のワーク/議論を振り返り・言語化することで、なぜこの事業が生まれ、なぜこの事業をやる必要があるのか、**役場内説明のための事業実施のロジック**を整理できる

全6回で議論してきた内容や作成してきたワークシートを整理することで、開発された事業の実施ロジックを示すことができるプログラムおよびフォーマットになっている

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業 議論内容整理 市/町

客観的指標に基づいた地域の現状

現状を踏まえた取り組み課題と目指すべきまちの姿（本事業全体のゴール） 改善を目指す出生に関する指標

その課題に取り組む理由

住民の声から見えてきた対応策の方向性①

住民の声から見えてきた対応策の方向性②

住民の声から見えてきた対応策の方向性③

参考となる住民の声

参考となる住民の声

参考となる住民の声

取組む事業案①-a

取組む事業案①-b

取組む事業案①-c

取組む事業案②-a

取組む事業案②-b

取組む事業案②-c

取組む事業案③-a

取組む事業案③-b

取組む事業案③-c

Copyright © 2022 Okayama Prefecture. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

Day2

客観的指標・イシューマップの内容をもとに記載
※できる限り数値を使い具体的に記載

Day2

設定した解決を目指す出生に関する指標・探索の問いをもとに記載

Day4

最終事業案になっている、解決課題シートをもとに記載
※解決課題シートから変更していたり、いくつかのものを組み合わせ記載してもOK

インタビュー

発言録・インタビューサマリーをもとに記載

Day5・Day6

事業アイデアブレスト内容、事業案リストをもとに記載

Day6の様子

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



03

参加市町の検討内容・成果

1

- 1 : みどりの館みやま【農産物・海産物・加工品直売所】
- 2 : 宇野港【宇野コチヌ、宇野のチヌ】



2



玉野市

玉野市は、岡山県の南端に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた、風光明媚で温暖な気候の港町です。市の中心部にある宇野港は、県の海の玄関口であり瀬戸内海の島々（直島・豊島・小豆島）へのフェリーの定期航路のほか、大型船舶が着岸できる耐震バースに外国からのクルーズ客船の寄港もあり、近年、「瀬戸内国際芸術祭」が行われるアートな島々への玄関口としてもアクセスの良さが人気で、港周辺には数々のアート作品が徒歩圏内に点在しています。

総面積	103.58km ² (R5.1.1)
総人口	55,486人 (R5.3.31)
世帯数	27,016世帯 (R5.3.31)
合計特殊出生率	1.30 (R3)
未婚率 (25~39歳)	男性 56.8 % 女性 40.2 % (R4)
有配偶出生率 (15~49歳)	63.2
特徴	20歳~30歳代の定住意向が低い



玉野市が抱える課題

- 少子化対策に総合的に取り組む課がなく、結婚・出産・子育て・人口減少対策などを所管する課がそれぞれ単独で支援しており一体感がない（体制）
- 客観的データに基づく分析や要因を読み解く力・ノウハウを有しておらず、マンパワー不足も重なり、効果がありそうな事業を何となく実施してきた（データ活用）
- 市民アンケート(R4年度実施)では、少子化対策・子育て支援に関して、「男性の育児休暇取得など支援制度の充実」について重要度は高いが、満足度が低い結果だった。そのため、男性の育休取得状況について、市内企業等への調査は未実施ではあるが実態把握の必要性を感じていた（人的・財政的）



参加目的

課題（体制、データ、人・財政）を解決でき、国の少子化対策地域評価ツールを活用し、県や委託事業者の協力・サポートを受けながら効率的に少子化対策に取り組むことができるから

着目した地域課題

子育て世帯（20～30歳代）の定住意向が低い

目指すべき地域の状態

幸せに子育てをしながら働ける環境をつくることで、子育て世代の定住意向をあげていくことを目指す。

解決を目指す出生に関する指標 女性の正規雇用率、子育て世帯の転出、合計特殊出生率

その課題に着目した理由

「20～30歳代の定住意向が低い」という課題が、他の要因（働き方、住環境等）にも大きく関わっていると思われるため。

調査設計

設定した探索の問い

- 働きながら子育てすることで、親も子もより幸せを感じられるようにするためには、どうすればよいか。

調査方法

- デプスインタビュー（60分程度）

調査対象者

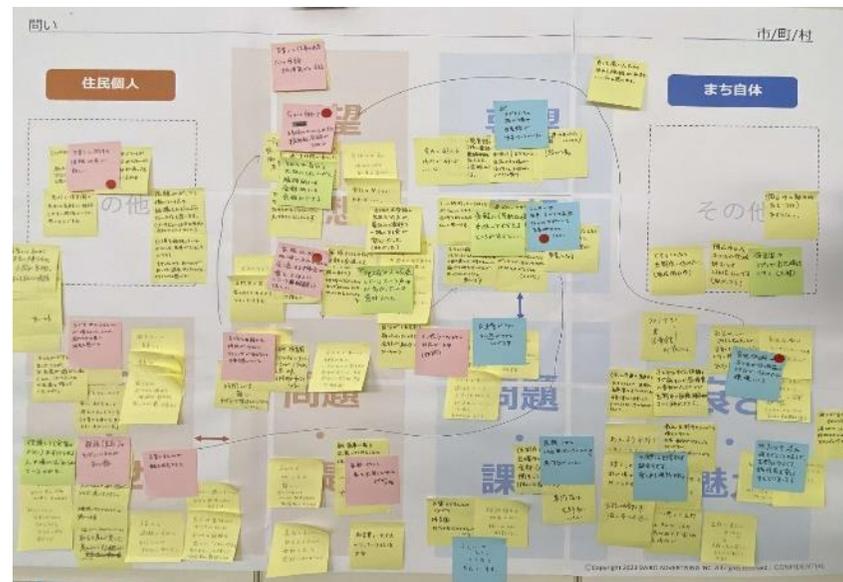
- 直近2～3年で転入してきた、働きながら子育てしている方
- 市内出身だけど転出した、働きながら子育てしている方
- 市内出身・市内在住の、働きながら子育てしている方

主な聴取項目

- 子育ての実態について
 - 子どもとの過ごし方
 - 子育てをされていてうれしい瞬間
 - 子育てにおける負担・不安
- 子育てと仕事の両立について
 - 子育てと仕事の両立実態
 - 職場の支援
- 玉野市（居住地）について
 - 市の魅力
 - 市の子育て支援

インタビュー調査での気づき

- 子育て支援策に大きな不満を持つ人はいなかったが、子育てに関する情報収集が難しいと感じている。
- 子どもには、家族以外の地域の人々と交流し、様々な経験をしてほしいと思っている。
- 子育てと仕事の両立は大変なこともあるが、短時間でも働くことで、精神的にも金銭的にも余裕を持つことができている。



目指すべき地域の状態

働きながら子育てすることで、親も子どもより幸せを感じられるまち

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

子育て支援拠点の充実

参考となる住民の声

- 近所の方と交流する機会が少なくネットワークが弱い
- 子育て支援センター等は平日だけしかやっていないので、働いていると利用できない

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

必要なときに必要な情報
だけが届く仕組み作り

参考となる住民の声

- 子育て施策には満足しているが、その情報が十分に伝わっている感覚がない
- 広報紙が入らない地域がある

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

子育て世帯でも働きやすい
職場とのマッチングの提供

参考となる住民の声

- 急に休む可能性があることを職場に理解してもらうことで、ストレスなく働くことができる
- 共働きだからこそ、金銭的にも心にも余裕が持てる

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

子育て支援拠点の充実

開発した事業案

子育て支援拠点の充実

児童館の利便性向上

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

必要なときに必要な情報
だけが届く仕組み作り

開発した事業案

子育てアプリ

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

子育て世帯でも働きやすい
職場とのマッチングの提供

開発した事業案

子育て応援企業の紹介

マザーズハローワーク
出張相談会

ワークwithチャイルド
(子連れ出勤)

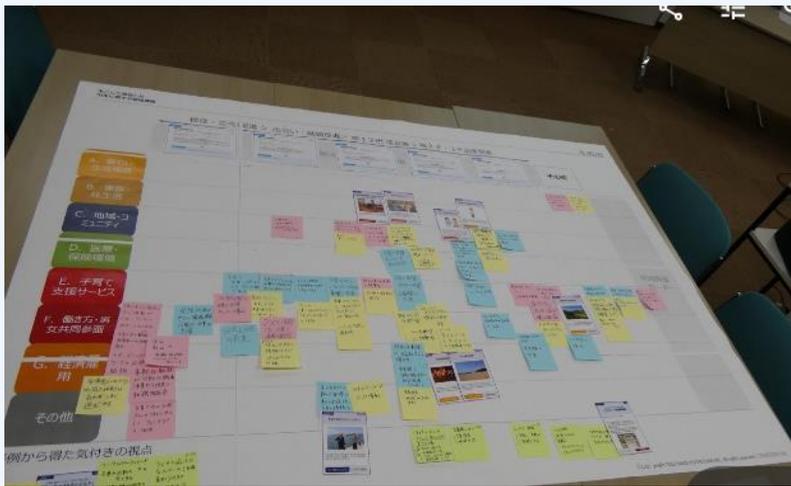
令和6年度
予算要求事業

今後予算要求
予定の事業

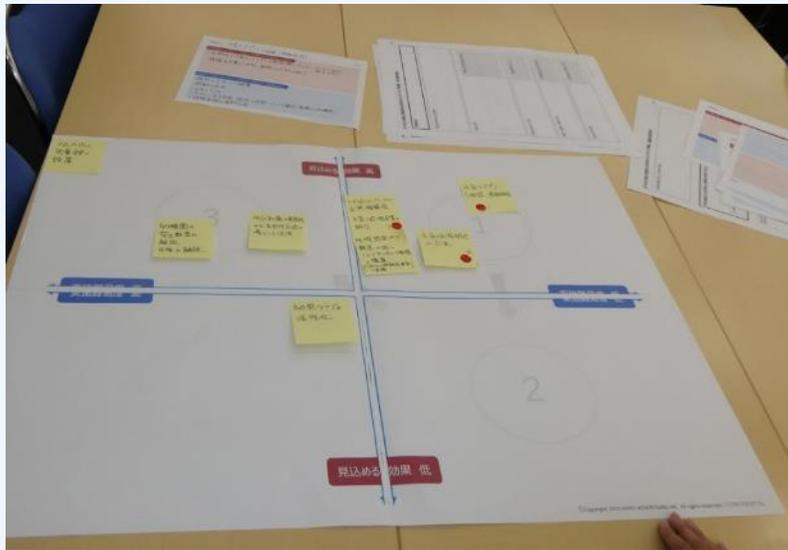
継続して検討
する事業

事業アイデア開発の様子 (Day5~6)

Day5 事業アイデア付箋を貼ったワークシート画像



Day6 事業の優先順位付けをしたマトリックス画像



事業案名 たまの子育てアプリ導入事業

事業の趣旨および必要性

「働きながら子育てすることで、親も子もより幸せを感じられるまち」を目指し、子育てと仕事のバランスが取れた環境を作ることで、子育て世代の定住意向が改善されると思われるため、本事業を実施する。

事業の内容

市からのお知らせをはじめ子育てに係る支援情報、各種イベント、お出かけマップ、予防接種、各種健診、成長の記録、子育て支援センターや児童館などの拠点施設情報をアプリへ集約し、幅広い世代の人へ子育て等に関する様々な情報から必要なときに必要な情報が届く仕組みを整備するもの。

また、令和6年1月から運用している県のももっこアプリに関する情報（ダウンロード案内や協賛店情報など）を本市の子育てアプリから発信することにより、幅広い世代の人が子育てに関する様々な情報を取得できるとともに、両アプリの利用者拡大の観点からも連携効果を期待できる。

県の子育て応援パスポート
ももっこアプリとも連携予定！



参加してみたの気づき・学び・成果

- データの見える化で、課題から仮説設定までロジカルに行えた（学び）
- 闇雲にすすめる従来型とは、一線を画した手法で新鮮だった（学び）
- 評価ツール等エビデンスに基づく政策立案の手法を学べて有益だった（学び）
- 少子化対策の司令塔になる部署の、必要性をあらためて感じた（気づき）
- 子育て世代へのインタビューから、実態が垣間見れた（気づき・学び）
- 県の後ろ盾があるのは、庁内での予算要求等にもプラスに作用した（成果）
- 県と市町村が役割分担して事業する、スキームは有用。他に横展開を望む

参加してみたの課題・苦労点

- 毎WSが長時間で、集中力を保つのに苦労した
- WSを踏まえて取り組んだHWも \times 切りに追われ苦労した（通常+ α 業務）
- HWなど各市町村の打合せにも参加してよかった
- スケジュール的に余裕がなかった
- 庁内の足並みが揃っておらず、どこがイニシアチブ取るか苦労した
- WSはオンラインとのハイブリットでも良かった（遠方の市町村は負担）

牛窓オリーブ園から多島美を眺める ー瀬戸内海国立公園ー

瀬戸内市

瀬戸内市の概要

本市は、岡山県の南東部に位置し、県庁所在地の岡山市に接しています。都市近郊型の住宅地と瀬戸内海に面した景観や緑豊かな丘陵などの美しい自然からなっています。

総面積	125.46km ²
総人口	36,483人 (R6.1.1現在)
世帯数	16,166世帯
合計特殊出生率	1.27 (R4) ※ 県平均を下回る
未婚率 (25~39歳)	男性 52.4% 女性 38.9% (R4)
有配偶出生率 (15~49歳)	60.4人 ※ 県内26位
特徴	子育て世帯の転入超過 (社会増)



瀬戸内市が抱える課題

- 担当と思われる部署のみが業務に臨んでおり、全庁的な取組になっていない
- 瀬戸内市にとって何が効果的な施策なのかわからない
- 今は開発が進んでいて子育て世帯の転入もあるが、いつまでも続かない
- 結婚や出産への考え方が昔とは異なっている（多様性）
- 人口の地域差が拡大（休園等）



参加目的

- 費用助成や専門家派遣に魅力を感じた
- 施策の参考になればと思った
- 課題への新しいアプローチ方法に期待した



見えてきた地域の現状

- 合計特殊出生率は県内24位と低い。
- 有配偶出生率が県内26位と低い。
- 第3子以降の合計特殊出生率のみ県平均を上回っている。
- 10代20代の転出超過。
- 独身、新婚世帯の住める賃貸物件が少ない。
- 30代40代は転入傾向にあり、市外で出産し、転入するケースが多い。
- 産婦人科がなく気軽に治療や検査などに行けない環境。
- 土地が安い分譲地があり、持ち家・戸建て比率が高い。
- 子連れで出かけやすく楽しめる遊び場（公園）が少ない。

着目した地域課題

第1子・第2子の合計特殊出生率が低い。第3子以降は県平均を上回っている。

目指すべき地域の状態

もう1人子どもが欲しいと考えている人が安心して子育てできる環境がある。

解決を目指す出生に関する指標 合計特殊出生率（第3子以降）：0.37

その課題に着目した理由

第1子・第2子の合計特殊出生率をあげるためには、インフラの整備等を伴いハードルが高いため、第3子を強みと考え、ソフト事業で第3子以降の合計特殊出生率をあげるため。

調査設計

設定した探索の問い

- 子どもが増えた方が幸せと感じてもらうにはどうすればいいか。

調査方法

- グループインタビュー（90分程度）
5名×3グループのインタビューを実施

調査対象者

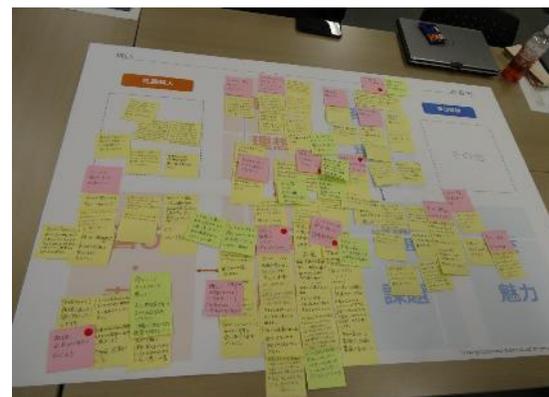
- 瀬戸内市で子育てをされている方
※子どもの人数が1~2人又は3人以上の方
両者が集まるよう募集

主な聴取項目

- 子育ての実態について
子育てにおける幸せ
子育てをして大変なこと
- 子どもの人数について
理想の子どもの人数
子どもの3人の子育てについて

インタビュー調査での気づき

- 子どもの存在や子どもがいる日常自体に幸せを感じている。
- 自分のペースで生活ができない苦勞を抱えている。
- 共通して将来的な出費が不明確であるため、経済面での不安が大きい。
- 自身も多子世帯だった方は経験から3人以上の子どもを持つメリットを感じている。
- 2人以下の方も3人以上のメリットを理解しつつも、想像と現実のギャップの不安が大きい。





目指すべき地域の状態

もう1人子どもがほしいと考えている人が安心して子育てできる環境がある。

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

経済的不安の軽減

参考となる住民の声

- ・子育てにお金がかかる。
- ・将来子育てにどれだけかかるか分からず不安

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

家事負担の軽減

参考となる住民の声

自分のペースで生活ができない苦勞を抱えている。

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

在宅での育児の支援

参考となる住民の声

保育園に入れない。

解決課題を踏まえた最終事業案 (Day5~6)

STEP1

STEP2

STEP3

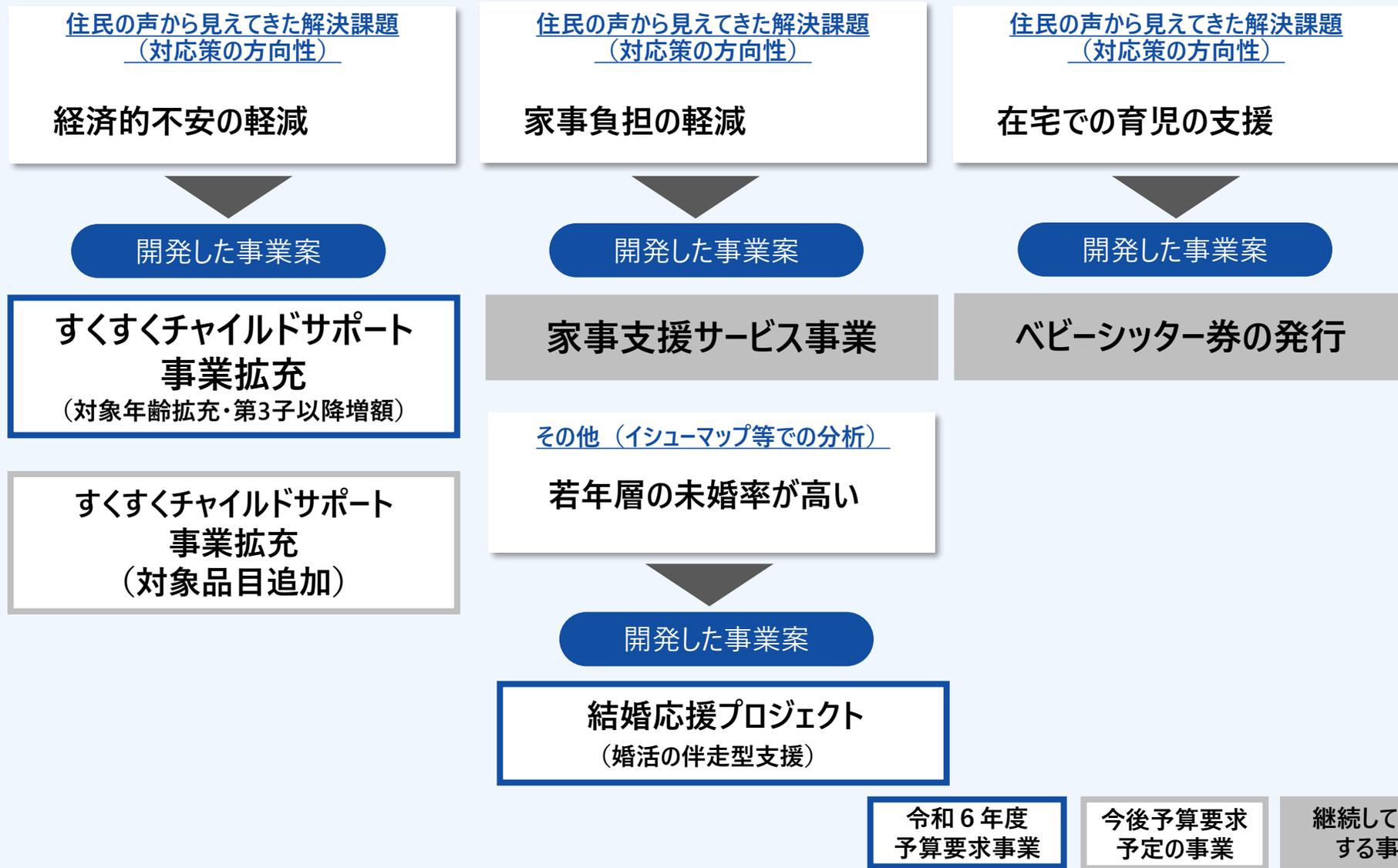
STEP4

STEP5

STEP6



三井戸大市 セツちゃん



事業アイデア開発の様子 (Day5~6)



Day5 事業アイデア付箋を貼ったワークシート画像



Day6 事業の優先順位付けをしたマトリックス画像



事業案名 **すくすくチャイルドサポート事業（拡充）**

事業の趣旨および必要性

既存で好評のすくすくチャイルドサポート事業を拡充する。インタビュー調査で、子育てすることに幸せを感じているが、経済不安が、もう1人産み育てることをためらう要因であることが聞かれた。そこで、出生後の子育て世帯の経済負担軽減を目的に、「すくすくチャイルドチケット」の配付対象年齢の拡充と、第3子以降の増額を行う。

事業の内容

市内の協力店舗で育児に必要な紙おむつや粉ミルクなどの育児用品を購入することができる「すくすくチャイルドチケット」を月額3,000円分、満3歳到達月まで配布する。

対象者 満2歳まで

満3歳まで

交付金額 1人あたり
3,000円分

第3子以降1人あたり
2,000円分増額



参加してみたの気づき・学び・成果

- 他部署への要望も多く、少子化対策は全庁的な取組であると再認識した
- 子育て等への課題は多種多様で万能薬も特効薬もない
- 費用をかけなくても、慣習を是正すれば要望に応えられる課題もあった（実現可否は別問題）
- 今までそうしてきたから、という踏襲的な考えを、時代に合わせて適切に変化させていく必要性を感じた
- 少子化対策は効果が表れるまで時間がかかるため、予算の課題もあるがトライアンドエラーの部分も必要と感じた
- 他市町村の合同ワークショップから刺激を受け、俯瞰する力が鍛えられた

参加してみたの課題・苦労点

- 子育て世帯から、他部署に対する施策要望も出たが、共有等が密に行えなかった
- 部署によっては少子化対策の担当ではないという意識が依然として残っている
- 思ったより費用助成（100万円）の自由度が低かった（委託先が限られていた）
- ワークショップのボリュームがあるので消化不良のまま進めることになった
- 事業化（予算化）までの時間的猶予がなかった
- インタビューサンプル数が少なく、是を以て市の課題としてよいか不安を感じた
- 財政部署との財源なき予算化の調整



矢掛 町

ほどよい田舎で住みやすい！歴史ある街並みと自然が溢れる町

総面積

90.62km²

総人口

13,273人 (R6.1.1)

世帯数

5,494世帯 (R6.1.1)

合計特殊出生率

1.59 (R2)

未婚率
(25~39歳)

男性 **52.4%** 女性 **38.9%** (R4)

有配偶出生率
(15~49歳)

77.4%

特徴

岡山県の南西部に位置。旧山陽道の宿場町で、昔ながらの街並みが残っている。近年は観光にも力を入れており、イベント等では観光客の賑わいをみせている。



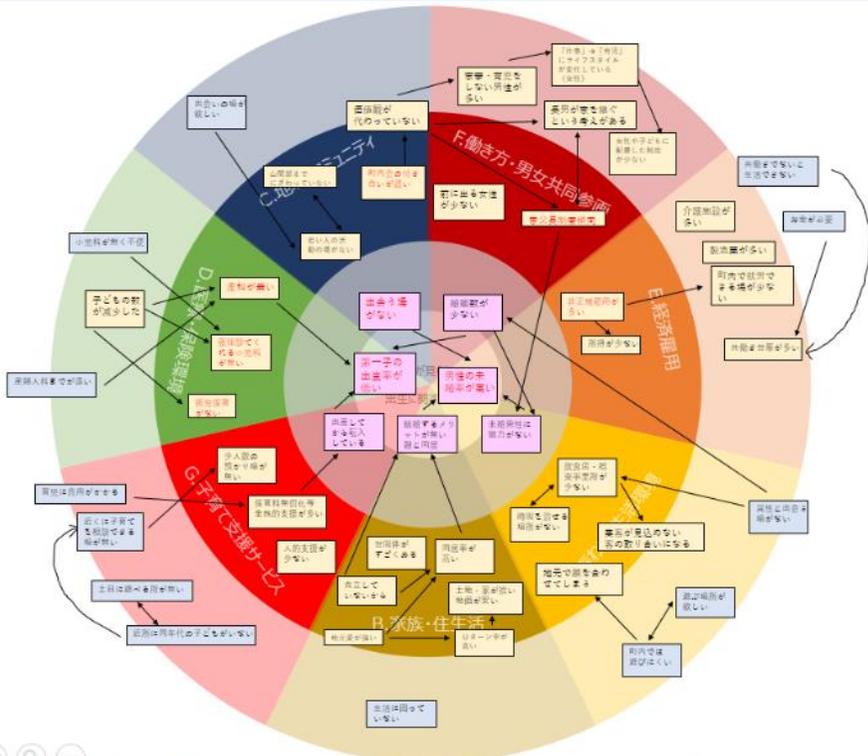
矢掛町が抱える課題

- 出生数が年々減少し少子高齢化が急速に進行
- 町内に出会いの場が無く、若者も少ない為婚姻数が少ない
- 子どもの数が減ったことにより、子育てで孤立感を抱えている家庭が増加している
- 昔ながらの考えが根強く、今の育児への理解が無い
- 子育て支援 = 金 ⇒ 場所・物・人の子育て支援が無い



参加目的

担当業務で、子どもや保護者からの相談を受ける事が多いが、相談を受けても紹介できる社会資源が町内に無い。新しい事業を行うためには、財源が必要…。バックアップ事業に参加する事で、少子化対策と合わせた子育て支援制度の検討ができると考えたため。



見えてきた地域の現状

- 男性の未婚率が高く、親との同居率が高い
- 町内で出会いの場が無い
- 第一子の出生率が低いが第二子・第三子の出生率が高い
→ 他市町村で第一子を出産後に、子育て支援を求めて矢掛町に転入している
- 昔ながらの考え方が根強い、家父長制
→ 男は外で仕事・女は家事育児をする
世間体強い・「ふうがわりい」
- 子育てにおける人的支援が少ない
- 妊娠期～子育て期の医療体制の不足
→ 町内に産科・病児保育・夜間対応の小児科が無い

着目した地域課題

第1子の出生率は低いが、第2子・第3子の出生率が高い。

目指すべき地域の状態

課題のある第一子ではなく、強みのある第二子第三子以上の出生率を伸ばしていく。

解決を目指す出生に関する指標

第一子の出生率が、県・全国平均を大きく下回っている。

その課題に着目した理由

町内に産科が無い為、第1子の出生率を伸ばしていくには課題が多い状況。現状育児をしている方の不満や要望等の声を聴き、もう1人安心して埋めると思ってもらうための支援のありかたを検討することで、子どもの人数を増やす事ができると考えたため。

調査設計

設定した探索の問い

安心して子どもを産んでもらうにはどのような子育て支援が必要か。

調査方法

グループインタビュー

調査対象者

矢掛町内で子ども1人以上育てている男女
※転入者・地元民，男性・女性それぞれに調査

主な聴取項目

■子育ての実態について

- ・子どもとの過ごし方
- ・子育てをされていて嬉しい瞬間
- ・子育て中の負担・不安
- ・自身の子育てについての評価
配偶者との役割分担

■子どもの人数等について

- ・理想の子どもの人数



インタビュー調査での気づき

- ・矢掛町は色々な施設がコンパクトにまとまっている
- ・父親は経済的不安，母親は育児家事の手の足りなさを感じている
(男性と女性の意識の違い)
- ・転入者は周囲との繋がりが弱く孤独に子育てをしている
- ・家事・育児は“やれるほうがやる”が成功の秘訣
- ・「産む不安」「育てる不安」が強い



目指すべき地域の状態

困った時にいつでも育児支援・家事支援を利用できる環境が整っており、安心して子供を育てることができる環境がある

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

周囲との繋がりが弱く
孤独に子育てをしている

≫ 親子がいつでも自由に入出入り
する事ができる場所・居場所
が必要

参考となる住民の声

- ・悩みを話せる強制的な場所がある方が嬉しい
- ・土日に支援センターが空いていたらと思う。
- ・ママ友は勝手にできると思っていた。
- ・自分から繋がりを作っていくのは難しい。

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

母親は育児・家事の手の
足りなさを感じている

≫ 困った時にいつでも育児支援
や家事支援を利用する事がで
きる体制が整っている環境が
必要

参考となる住民の声

- ・2人で手がふさがっている。3人目は厳しい。
- ・1人で複数の子を見るのは無理。
家事代行を使いたい。
- ・仕事と家事の両立は大変

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

家事・育児はやれるほうがやる

≫ 共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

参考となる住民の声

- ・我が家の家事は1:9で本当に夫は何もしない。
- ・子ども2人に加えて夫まで育てなきゃいけない
だろうとイライラすることも増えてきた。
- ・夫は子どもと関わってくれる時間を作ってくれ
れば十分。
- ・ちゃんと分担ができていいるから、不満は無い。

解決課題を踏まえた最終事業案 (Day5~6)

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6



住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

親子がいつでも自由に入
り出する事ができる場所・居場所
が必要

開発した事業案

子育て支援センター等での
イベント実施

子育て支援センター日曜日開所

こども食堂の実施

親子の料理教室

高齢者と子育て世帯の交流の場づくり

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

困った時に、いつでも育児支
援や家事支援を利用する事が
できる体制が整っている環境が
必要

開発した事業案

子育て支援サポーター養成

子育て世帯タクシー券助成

病児保育の整備

やかげnabi (アプリ) の活用

一時預かりの曜日の拡充

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

開発した事業案

家事育児シェアシート作成

パパの半日こども園体験

保育園での弁当販売

パパ育児教室の開催

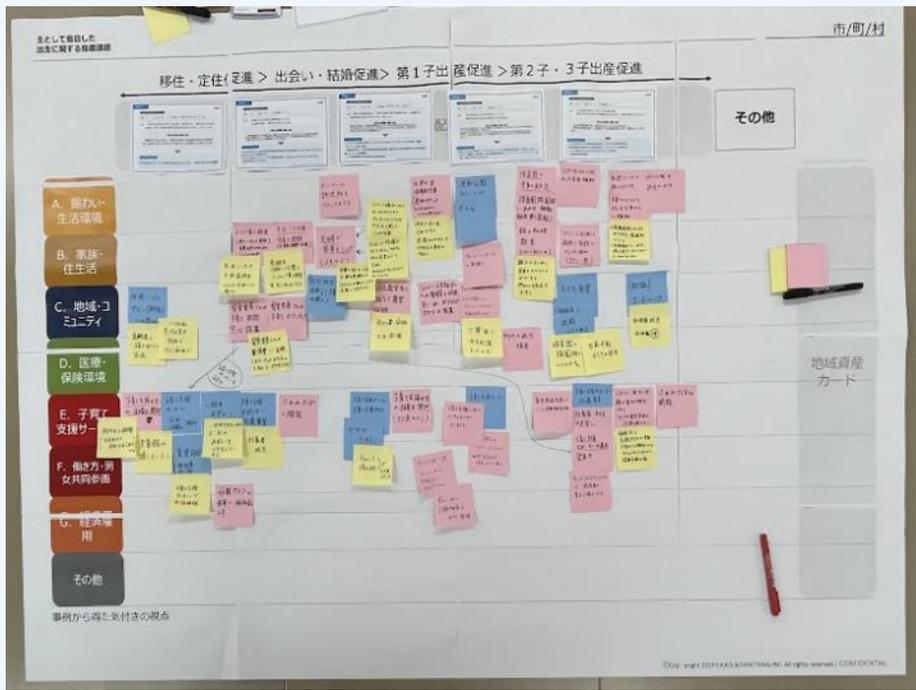
令和6年度
予算要求事業

今後予算要求
予定の事業

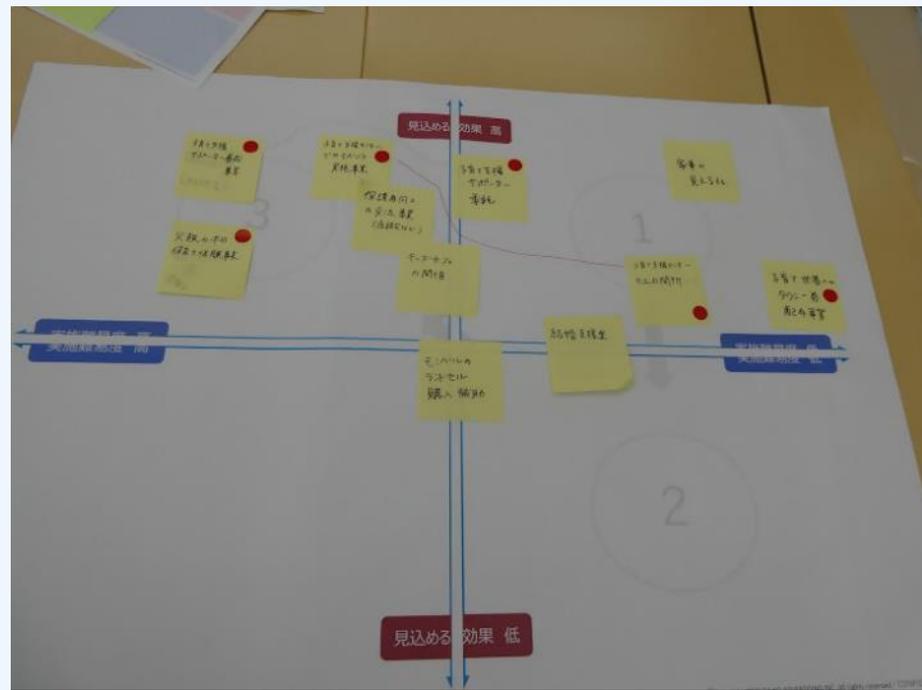
継続して検討
する事業

事業アイデア開発の様子 (Day5~6)

Day5事業アイデア付箋を貼ったワークシート画像



Day6事業の優先順位付けをしたマトリックス画像



事業案名 子育て支援センター等でのイベント実施事業

事業の趣旨および必要性

土日の親子の居場所づくりや、保護者同士の交流の場をすることにより、子育てにおける不安感や負担感を軽減させる。矢掛町での子育てが楽しいと感じてもらう。

事業の内容

- ▶ 子育て支援センター等の町内の施設を利用した親子イベントを実施し、交流の場・居場所づくりを行う。
年4回竹を使ったワークショップや昼食作り（羽釜ご飯やソーメン流し）等のイベントを実施
- ▶ 子育て支援センターで母親交流事業を実施
「親子の絆づくりプログラム」を実施し、子育ての悩みや不安を保護者同士で共有する。
（就学前の子を育てている母親向けの育児プログラム 全5回）



※実施については県内NPO法人へ委託



子育て支援センターの日曜日開所や、矢掛町に子育て支援拠点の設置等も検討していく。

事業案名 子育て支援サポーター養成事業

事業の趣旨および必要性

町内で活動している子育て支援サポーター（シルバー人材センター会員）が、家事支援や育児支援のノウハウを学ぶ機会を作り、今後の活動に活かせるよう支援する。
 子育て支援サポーターの利用増に向け、受け皿となるサポーターの会員を増やす。

事業の内容

- ▶ 子育て支援サポーターとして活動している人、これから活動していく人に向けた、子育てに関する講座やグループワークを行う。（全五回程度）
- 内容は、
- ・今の子育て事情について学ぶ
 - ・家事支援・育児支援についてのノウハウを知る
 - ・サポーター同士の交流を持ち、他の人の活動内容を知る

 今後の活動に活かしたり、子育て支援センター開所時の託児等で活動してもらえよう、働きかけていく。

矢掛町子育て支援サポーターのご案内

矢掛町では、育児・家事等に困難を抱えている家庭を対象に子育て支援サポーターの派遣を行っています。

支援内容

1. 家事支援（買い物、調理、掃除等）
2. 育児支援（沐浴補助、オムツ替え補助等）
3. 子育て相談

▶ 子どもの送迎は対象外です。

利用料・利用時間

- ▶ 料金：1時間あたり、500円
 （1回の訪問につき2時間まで、1家庭20回まで）
※買い物等で発生した費用は、利用者の自己負担
- ▶ 時間：月～日曜日 8:30～17:00（要相談）
※生活保護世帯は無料
- ▶ 対象：月～日曜日 8:30～17:00（要相談）
年末年始（12月29日～1月3日）は除く

対象者

- ▶ 矢掛町に住所があり、産前産後（産後1年未満）の妊産婦のいる家庭
 - ▶ ひとり親、保護者の心身の病気・疾病等を有する家庭
 - ▶ 他の親族の援助等が受けられず、育児等に困難な事情を抱える家庭
- ▶ 申請時に詳しく聞き取りを行います。

注意事項

- ▶ この事業は、子どもを養育されている保護者の子育て支援を目的としています。
- ▶ 保護者をご不在の状態で、サポーターが1人で子どものお世話や子守り等を行うことはできません。

事前に役場健康子育て課で利用相談・申請が必要です。
 利用決定後打ち合わせ等を行い、利用開始となります。
 （※家庭状況等によって、利用ができない場合があります。）



事業案名 子育て世帯タクシー券助成事業

事業の趣旨および必要性

移動が困難な子育て世帯や妊婦向けにタクシー券を交付する。
習い事や療育等への送迎や、妊婦検診等で町外の病院へ受診する際の移動手段の確保を行う。

事業の内容

▶ 町内のタクシー事業所で利用できるタクシー券を交付
内容：600円券を月2枚 年間24枚 ※1回の乗車で何枚でも利用可能
利用実績に応じ、タクシー業者に助成金の支払いを行う。

対象者：0～18歳までの子ども、母子手帳を交付している妊婦



町内の他の移動支援の状況を確認・町民のニーズを把握しながら事業内容を検討していく。

事業案名 父親の育児支援事業

事業の趣旨および必要性

家事育児の見える化を実施し、実際に父親が自分以外の子どもと関わる機会を持つことにより、夫婦で協力して家事育児を行うという気運を醸成していく。

事業の内容

▶ 家事育児シェアシート作成

矢掛町版の家事育児シェアシートを作成し、町内で子育てをしている夫婦に実施依頼。
作成したシェアシートを使ったセミナーを実施し、パートナーとの役割分担について考える機会を持ってもらう。

▶ パパの半日こども園保育士体験

町内認定こども園で、子育て中の父親が半日保育士体験（食事介助以外）を実施。
実施後は町内の保育園の掲示板等で事業を案内。



家事育児の負担を可視化し、母親の負担軽減を図っていく。
R7年度以降、他の園でも実施ができるように検討・調整していく。



事業案名 矢掛町結婚祝金等交付事業

事業の趣旨および必要性

結婚する町民に対して祝金及び祝品を交付。
若者の定住を促進し、町の活性化に資することを目的とする。

事業の内容

▶ 新婚世帯に10万円及び米5kgを交付

※受給資格

- (1) 婚姻届が受理された日において、婚姻者の年齢がいずれも満50歳未満であること。
- (2) 婚姻者の両方又はどちらか一方が、婚姻届受理後2箇月以内に、住民基本台帳法に基づき本町に住所を有し、かつ、引き続き6月以上居住していること。
- (3) 同一世帯において、町税及び町へ納入すべき納付金を完納していること。



矢掛町での婚姻率を伸ばすため、継続して事業を実施していく。

事業案名 矢掛町結婚新生活支援事業

事業の趣旨および必要性

低所得者の婚姻に伴う新生活を支援することにより地域における少子化対策の強化に資することを目的とする。

事業の内容

▶ 新規に婚姻した世帯に対して住居費、住宅リフォーム費用及び引越し費用の一部に補助をおこなう。

- ・補助金概要 : 新生活開始に係る経費（住宅取得費用、リフォーム費用、住宅賃借費用、引越費用）を助成
- ・要件 : 婚姻届出日に39歳以下、前年夫婦所得500万円未満
- ・補助上限金額 : 夫婦ともに39歳以下 300千円
夫婦ともに29歳以下 600千円



町民が経済的な不安感と負担感無く結婚してもらうため引き続き事業を実施していく。

参加してみたの気づき・学び・成果

- ・来年度に向け，具体的な事業実施を行うための準備ができた！
→補助金や他県で先進的に行っている情報提供，NPO等各種団体への繋ぎ等，県の方が全面的にバックアップしてくださった。
- ・他課の事業について知る良い機会になった！
- ・楽しんでインタビュー調査ができた！
- ・矢掛町の良い所にも目を向けることができた！

参加してみたの課題・苦労点

- ・参加メンバーへの声掛けやメンバーの確保
- ・ホームワークが大変だった・・・
→担当業務をこなしつつの作業
- ・健康子育て課だけでは不可能





奈義町

奈義町の概要

奈義町は岡山県北東部に位置し、北は鳥取県との県境になっています。標高1,250mの那岐山がそびえる自然豊かな町であり、奈義町現代美術館や江戸時代から伝わる農村歌舞伎「横仙歌舞伎」など、アートと文化が息づく町でもあります。

総面積	69.52km ²
総人口	5,734人 (R5.12.1現在)
世帯数	2,538世帯 (R5.12.1現在)
合計特殊出生率	2.68 (R3)
未婚率 (25~39歳)	男性 52.6% 女性 31.7% (R4)
有配偶出生率 (15~49歳)	109.0
特徴	中心部から半径2kmに人口の8割が定住するコンパクトシティ



奈義町が抱える課題

- 高い合計特殊出生率（H26年2.81、R1年2.95）を記録しているが、客観的な要因を把握できていない。
- そのため、少子化対策の充実のための新たな取組について、客観的な根拠をもって検討することが難しい。
- 移住者増加に向けた取組がまだ十分にできていない。

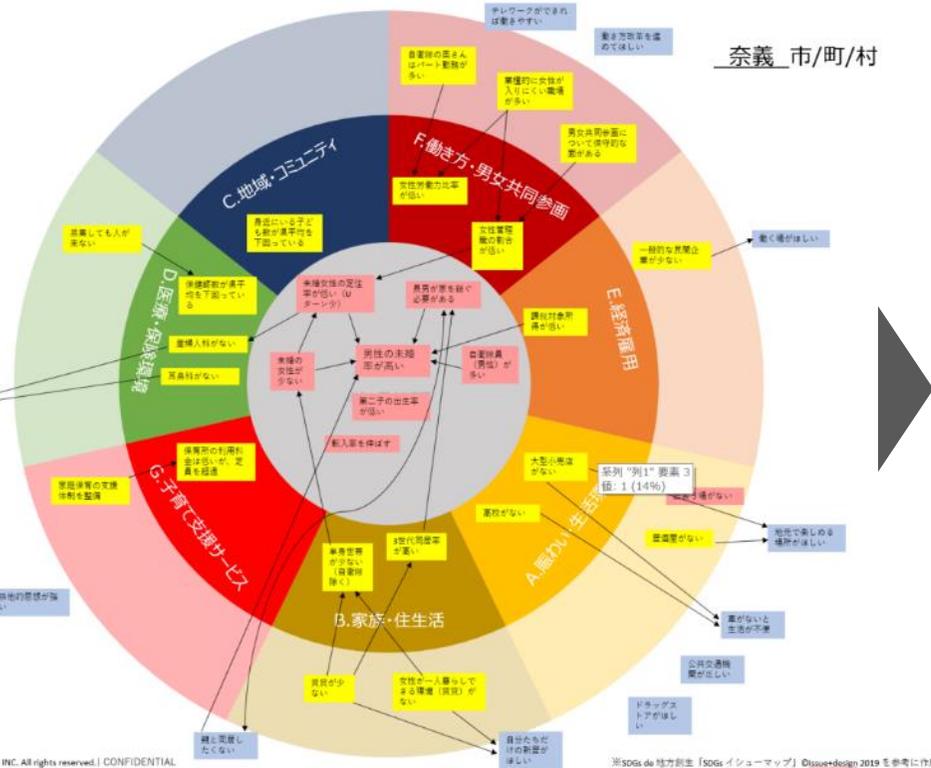


参加目的

町の現状や課題の分析を町単独で行おうとすると負担感が大きいですが、本バックアップ事業ではデータ分析から事業化まで県の伴走支援を受けられ、さらに財政支援もあることから参加を希望しました。

見えてきた地域の現状

- 3世代同居率が高い。
- 女性労働力比率が低い。
- 単身世帯が少ない。
- 課税対象所得が低い。
- 働く場所が限られている。
- 賃貸住宅が少ない。
- 病院が少ない（産婦人科や耳鼻科がない）。
- 商業施設や娯楽施設といった地元で楽しめる場所がない。
- 未婚女性の定住率が低い。
- 男性の未婚率が高い。



着目した地域課題

未婚男性の結婚相手となる未婚女性が少ない。女性のUターンが少ない。

目指すべき地域の状態

未婚女性が住みたい町をつくる

解決を目指す出生に関する指標 未婚率 女性31.7%、男性52.6%

その課題に着目した理由

包括的な問いであり、必要な取組について、結婚支援や仕事、住環境、地域性など幅広い面から考えられるため。

調査設計

設定した探索の問い

- 町全体で単身女性が住みたい町を作るために必要な取組みは何か

調査方法

- グループインタビュー（各グループ90分程度）

調査対象者

- 奈義町在住の高校3年生
- 奈義町在住の未婚女性／奈義町へ転入してきた未婚女性
- 奈義町在住の既婚女性

主な聴取項目

- 奈義町の評価
奈義町の魅力、問題点、定住意向
- テーマごとの考え方、志向
出会い・結婚、住まい・住環境、仕事・キャリア

インタビュー調査での気づき

- 奈義町で暮らす魅力として、近所付き合いやを挙げる声が複数あった。子どもが生まれたことで近所づきあいをありがたく感じるようになったとの声もあった。地域の人とのつながりが町への愛着につながっていると感じた。
- 町内に賃貸住宅が少なく、移住者は家を建てないと奈義町に住めないとの声があった。
- 働き口の少なさや保育園の空き状況から町内で働きづらいとの声があった。



目指すべき地域の状態

未婚女性が住みたい町をつくる

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・チャイルドホームの魅力
発信
- ・関係人口の創出

参考となる住民の声

- ・チャイルドホームが奈義町の子育て
支援の象徴
- ・他にはない人の温かさと支援の手厚さ
がある。

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・子育て支援の拡充
- ・子育てとキャリアの両立
- ・共働き世帯への支援拡充
- ・保育士の確保

参考となる住民の声

- ・いい保育施設はあるのに中身が
整備されていない
- ・保育園の定員がいっぱい
- ・仕事を優先したい
- ・核家族への支援が少ない

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・奈義町での将来のキャリアが
イメージできる機会の創出
- ・他自治体と奈義町の比較

参考となる住民の声

- ・奈義町での将来がイメージできない
- ・キャリアが積めない
- ・職場が限られる
- ・働き口が少ない

解決課題を踏まえた最終事業案 (Day5~6)

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・チャイルドホームの魅力発信
- ・関係人口の創出

開発した事業案

チャイルドホーム留学

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・子育て支援の拡充
- ・子育てとキャリアの両立
- ・共働き世帯への支援拡充
- ・保育士の確保

開発した事業案

出生率向上の
調査研究

保育士留学

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

- ・奈義町での将来のキャリアが
イメージできる機会の創出
- ・他自治体と奈義町の比較

開発した事業案

中学生・高校生の
キャリア支援

令和6年度
予算要求事業

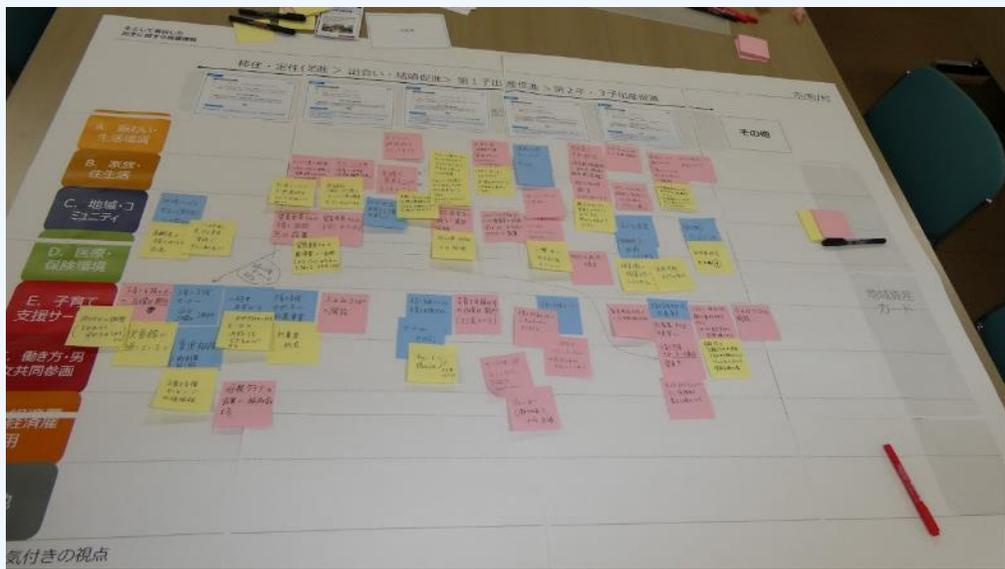
今後予算要求
予定の事業

継続して検討
する事業

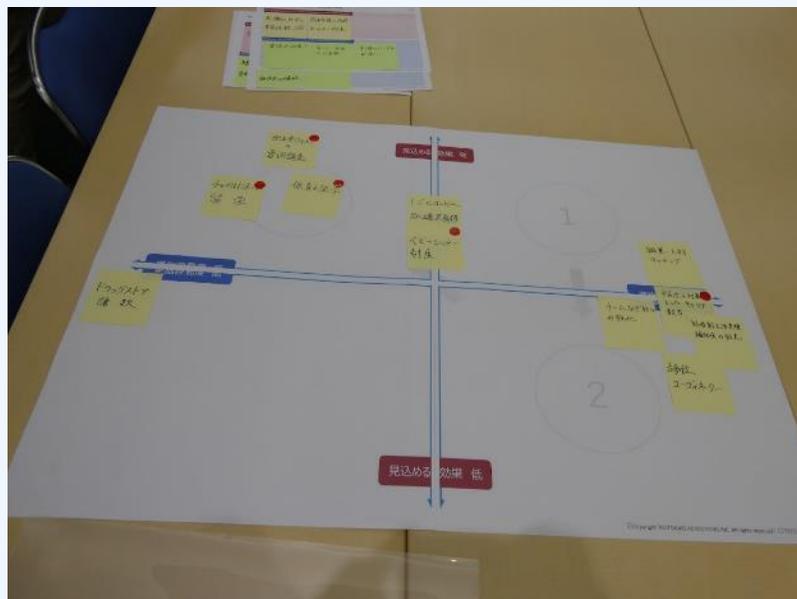
事業アイデア開発の様子 (Day5~6)



Day5事業アイデア付箋を貼ったワークシート画像



Day6事業の優先順位付けをしたマトリックス画像



事業案名 出生率向上の調査研究

事業の趣旨および必要性

奈義町の合計特殊出生率は令和元年の2.95、平成29年～令和3年の平均で2.51と全国トップクラスの数値であるが、その客観的要因が解明されていない。

本町の高い出生率の要因を解明することで、より効果的な少子化対策につなげるとともに、取組のヒントとして他自治体への横展開も図りたい。

事業の内容

- ・出生率向上の要因について、大学等と共同で、行政による子育て支援内容だけではなく、子育て世帯の心理的、経済的変化、生活環境の変化、人口移動など多角的に調査する。
- ・調査手法はアンケート調査とフィールドワークを予定。
- ・奈義町だけの分析ではなく、近隣、同規模自治体との比較も検討。
- ・調査から得られたデータをアカデミックに分析、検証し、結果を報告書として公表する。

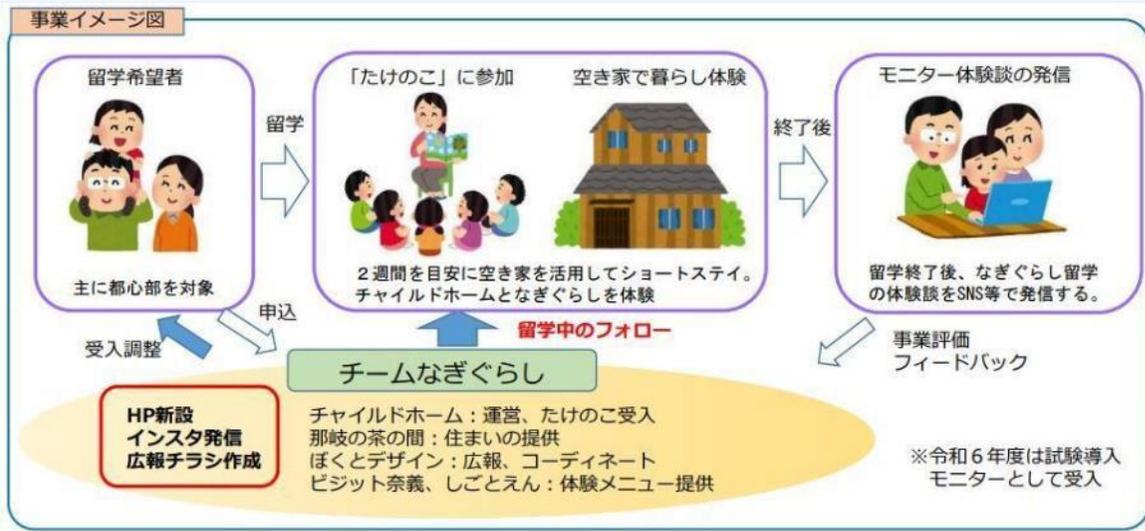
事業案名 チャイルドホーム留学

事業の趣旨および必要性

なぎチャイルドホームは、地域ぐるみの子育て支援を実践する施設であり、本町の子育て支援の大きな特色である。都市部在住の親子に、チャイルドホームの取組を体験してもらい、併せて自然豊かな奈義での暮らしを体験してもらうことで、本町で暮らす魅力を伝え、関係人口の拡大、さらには移住者の獲得につなげることを目指す。

事業の内容

- ・主に都市部在住の親子をターゲットに、奈義町に短期滞在していただく。
- ・参加親子には、なぎチャイルドホームの子育て支援を体験してもらう。
- ・町内の空き家に滞在し、奈義町の生活も体験してもらう。
- ・滞在終了後は体験談を発信していただく。



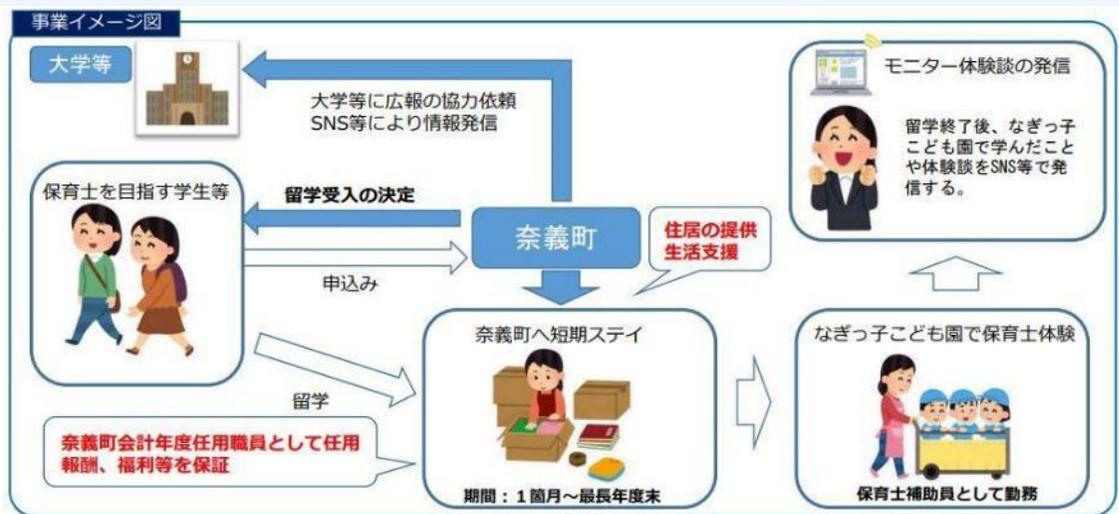
事業案名 なぎっ子こども園保育士留学事業

事業の趣旨および必要性

令和6年4月に開園する「なぎっ子こども園」で、保育士を目指す学生や都市部の潜在保育士等を受け入れ、保育士業務を体験する機会を提供することで、保育士としての就労やキャリア形成を後押しする。
併せて、奈義町に滞在する中で、本町の魅力を体感してもらい、関係人口の拡大を目指す。

事業の内容

- ・保育士を目指す学生、キャリアを積みたい保育士、都市部の潜在保育士等へ呼びかけ。
- ・地方都市の大学、潜在保育士等へアプローチ。
- ・奈義町に滞在しながら、なぎっ子こども園で保育士補助業務を行い、留学終了後はモニターとして体験談を発信。



参加してみたの気づき・学び・成果

- ワークショップで、データを基に地域の特徴等を検討したが、参加職員の主観や思いを大切にしてほしいと一貫して言われていたのが新鮮だった。
- データ提供や国、専門家とのネットワーク構築など、県の伴走支援はありがたかった。事業化に向けた作業でも県に協力いただいております、大変心強い。
- 主観調査（インタビュー）では、大広の方が参加者の話を引き出してくださり、参考になる意見を聞くことができた。

参加してみたの課題・苦労点

- 提供されたデータから議論する中で、取り組む地域課題が当初、想定していなかったものとなり、事業化が難しく感じた。
- 主観調査で寄せられた声をすべて事業に反映できたわけではなく、粘り強い取組が必要。
- 対面で集まって議論する意義はわかるが、毎回、ワークショップ会場まで移動するのは少し負担だった。



美咲町

岡山県の中央部やや北に位置し、東部には岡山県三大河川の吉井川が、西部には旭川が流れ、久米郡最高峰の二上山（689.1m）をはじめとした山間地が続く、中山間地域です。

総面積	232.17km ²
総人口	12,881人 (R5.12.1)
世帯数	5,923世帯
合計特殊出生率	2.23 (R3)
未婚率 (25~39歳)	男性 54.5 % 女性 34.4 %
有配偶出生率 (15~49歳)	72.1%
特徴	第1子の合計特殊出生率は県内2位であるが、第2子、第3子以降が低くなっている



美咲町が抱える課題

- こどもの数が少ない
- 高齢化率が高い
- 人口減少が続いている
- 少子化に対して横断的な取り組みができていない
- 少子化に対する客観的指標による分析ができていない
- 町内に就業先が少ない
- 町内に買い物のできる場所が少ない



参加目的

子育てに必要な取組を客観的データをもとに考察し、少子化対策施策を検討する。

着目した地域課題

第2子の合計特殊出生率が低い

(“ちゃんと”子育てできるか不安に感じている子育て世帯が多いから?)

目指すべき地域の状態

- ①子育て施策を知っている
 - ②経済的不安をなくす
 - ③支援体制を充実させる
- (“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境)

解決を目指す出生に関する指標：第2子の合計特殊出生率を上げる

その課題に着目した理由

子育て施策は充実している(はず)なのに、第2子の合計特殊出生率が低いから。

調査設計

設定した探索の問い

- 美咲町での子育てなんとかなる？

調査方法

- グループインタビュー
- デプスインタビュー

調査対象者

- 1 美咲町で子育てをされている方
- 2 美咲町から転出して子育てをされている方

主な聴取項目

- 子育ての実態について
- こどもの人数について

インタビュー調査での気づき

- 夫と子育てに関する気持ちの乖離を認識
- 子育てに関して、孤独を感じている
- ワンオペ育児が多い
- 家族全体をコントロールしなければいけない使命感を感じている
- 職場復帰に対して不安を感じている
- 自分の時間を取れないのはつらい
- 他のママと話すことで、気分転換になる
- 子育て情報を探すのは大変
- 美咲町の情報が調べにくかったと感じていた
(支援策の周知ができていない、情報を知らない)
- 親同士のつながりが少ない
- 土地が少なく、家を建てる印象を抱いている
- 実際にどうかよりも自分で収集できる情報がその人にとってのすべて
- 漠然と経済的不安を感じている

目指すべき地域の状態

“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

住居の確保への不安

参考となる住民の声

家を建てたくても土地がないって言う人々をたくさん聞く。

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

子育てについての相談・情報
収集がしづらい

参考となる住民の声

・夫が保育園のことなど全く知らず、興味すらもってくれない
・美咲町は情報が調べにくく近隣市町は1枚紙で理解しやすかった

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

経済的不安

参考となる住民の声

仕事を復帰したい気持ちがあったが、3人目もでき復帰できなかった。ただ金銭的に不安もあるため、どのタイミングで仕事を始めるか悩んでいる。



住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

住居の確保への不安

開発した事業案

➤ 民間賃貸住宅の増設促進

➤ 分譲地の整備

➤ 住環境の充実イメージアップ

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

子育てについての相談・情報
収集がしづらい

開発した事業案

➤ LINEを活用した情報発信・相談の機能拡充

➤ こどもと一緒に使えるコミュニティスペースの確保

➤ パパママ教室の開催

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

経済的不安

開発した事業案

➤ 新婚世帯への家賃補助

➤ ライフイベントごとの給付金（出産祝金の拡充）

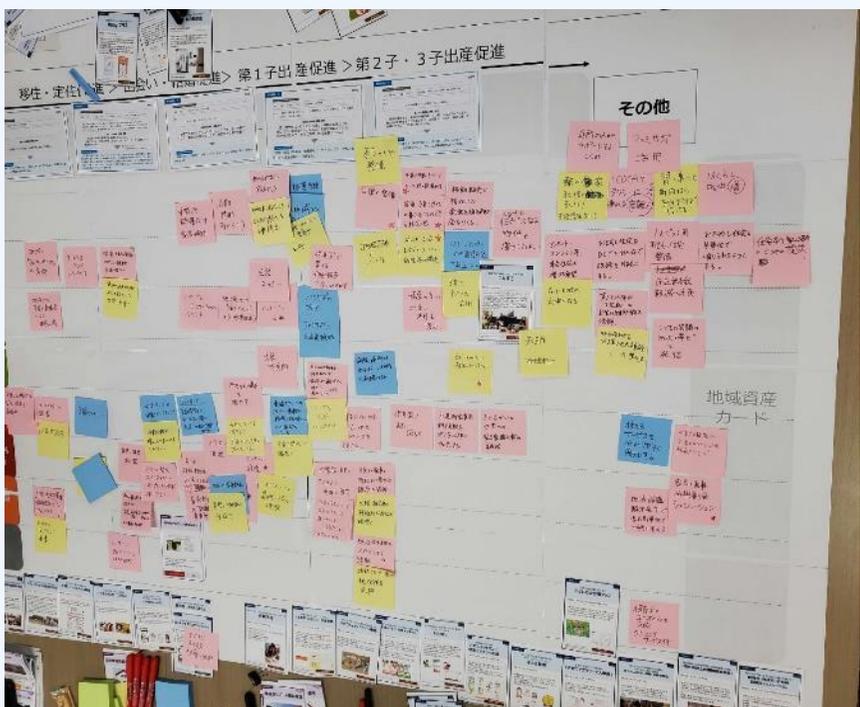
➤ ライフステージごとにかかるお金の試算

令和6年度
予算要求事業

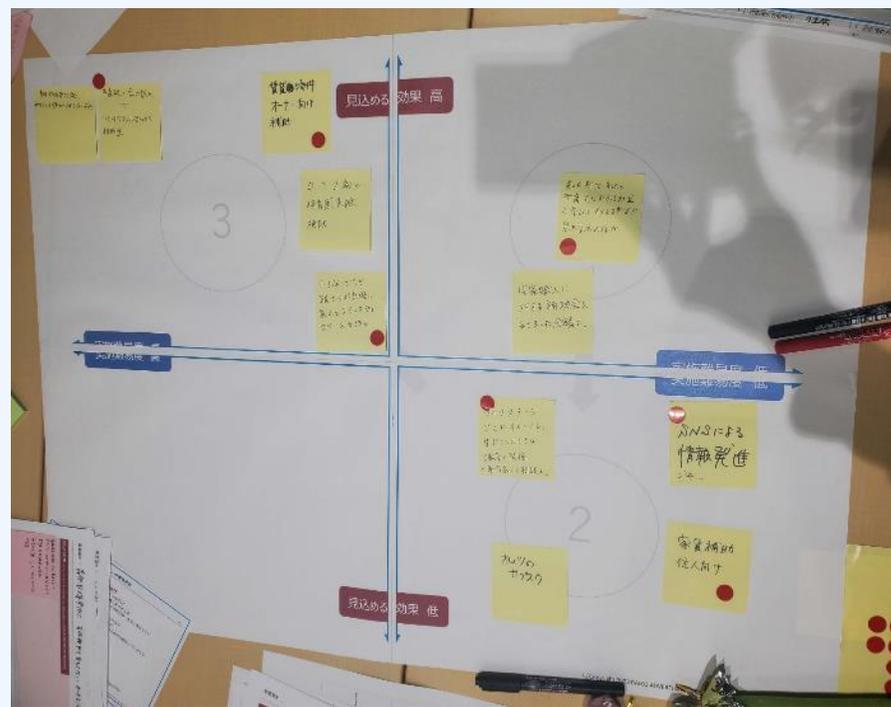
今後予算要求
予定の事業

継続して検討
する事業

Day5事業アイデア付箋を貼ったワークシート画像



Day6事業の優先順位付けをしたマトリックス画像



事業案名 LINEを活用した情報発信の拡充について

事業の趣旨および必要性

インタビューのなかで、美咲町の情報は調べにくかったという声があった。
 LINEを通じた情報発信・相談を行うことで、子育て世代の不安を解消する。

事業の内容

LINEを通じた情報発信により、登録した人の属性に応じて関心のある内容をプッシュで送信することで、既存情報へのアクセスを容易にする。

必要な情報へつなげ、制度を活用してもらい、制度を知らないことによる不安感の低減をはかる。

また、母子モやもっこアプリと連携し、子育て世代の利便性向上に貢献する。

県の子育て応援パスポート
 ももっこアプリとも連携予定！



事業案名 赤ちゃんの駅の整備と普及について

事業の趣旨および必要性

赤ちゃんの駅（だれでも自由におむつ替えや授乳ができるスペース）を整備し、乳幼児連れの世帯が外出しやすい環境を整える。親子で外出し、集まれる機会を創出する。

事業の内容

赤ちゃんの駅の改修と可動式赤ちゃんの駅の導入、及びステッカーによる周知

【授乳室・おむつ交換台設置のための改修】

柵原鉱山資料館

【可動式赤ちゃんの駅の整備】

本庁、各支所に1セットずつ

【ステッカー設置場所】

おむつの交換台・授乳室・ミルク用のお湯の提供のうち1つ以上がある施設。



事業案名 結婚新生活支援事業制度の創設について

事業の趣旨および必要性

結婚に伴う新生活を経済的に支援するため、新規に婚姻した世帯を対象に行う事業。
住宅取得費用/住宅リフォーム費用/住宅の賃借費用/引越し費用を補助するもの。

事業の内容

【対象となる世帯の要件】

新規に婚姻した世帯であって、夫婦ともに婚姻日における年齢が
39歳以下かつ世帯所得500万円未満の世帯

【補助上限額（1世帯あたり）】

夫婦ともに29歳以下：60万 それ以外：30万

【補助率】

都道府県主導型市町村連携コース 補助率 2 / 3



参加してみたの気づき・学び・成果

- 第2子の合計特殊出生率が低いという客観的指標は、この事業に参加したからこそ分かった
- 勉強会に参加することで、他市町の取組にも関心を持った
- 実際に制度があるかよりも、調べる人にとってはわかる情報がすべて。伝わるような情報発信をしなければ、制度があっても使われないことが分かった
- 他市町でも美咲町と似たような課題を抱えていることが分かり、意見を共有したり共感したりすることができた
- 一つひとつの課題に、複数の問題が複雑にからんで煩雑化しており、順番に解決策を考える必要があると感じた

参加してみたの課題・苦労点

- 美咲町の地域評価から見た、住民の全世代的特徴と美咲町の“子育て世代”の特徴は必ずしも一致しない
- 地域評価から見える課題と子育て世代のニーズは分けて考える必要がある
- 課題「第2子の合計特殊出生率が低い」ことの裏づけを取りたいが、美咲町が把握するデータのみではその確認が難しく、他市町や県ももっていないデータであった
- 問題点や課題への分析が今後も必要

04 成果報告会の概要/様子

成果報告会の概要

以下の概要で、県内外の自治体関係者向けの成果報告会を実施



次第

- 1 開会
- 2 あいさつ (岡山県 片山子ども・福祉部長)
- 3 地域アプローチについて
(内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 石川 悟 参事官)
- 4 地域少子化対策重点推進交付金について (オンライン)
(こども家庭庁長官官房少子化対策室 中原 茂仁 室長)
- 5 バックアップ事業の取組・成果・課題等について
 - ・バックアップ事業取組紹介 (岡山県子ども未来課)
 - ・ワークショップ概要 (株)大広
 - ・参加市町の成果発表 (玉野市、瀬戸内市、矢掛町、美咲町、奈義町)
 - ・成果や課題を踏まえた来年度の進め方 (岡山県子ども未来課)
- 6 その他
 - ・令和6年度の少子化対策事業 (新規重点等) について (岡山県子ども未来課)
 - ・講評 (デジ田事務局 石川参事官、岡山県 片山子ども・福祉部長)
- 7 閉会

日時 2024年2月9日(金)13:00~16:30

場所 岡山県生涯学習センター 視聴覚室

※オンラインとのハイブリッド開催

成果報告会の様子



会場には県内自治体担当者等**40**名、オンラインで県内・県外**98**自治体等**166**名が参加

05

成果や課題を踏まえた来年度の進め方

今回得られた成果・示唆・学び

今回の少子化対策バックアップ事業での成果と学び

- ✓ 各市町が感覚的に把握していた課題等を、EBPMの考え方に基づいた検証や住民の意見聴取を通じて、体系的に整理し、事業立案につながれたこと。
- ✓ 5市町が同時に進行することで、各々の地域性や課題の違いを比較したり、既に取り組んでいる事業を情報交換するなど連帯感がある検討ができたこと。
- ✓ 県（データ収集・整理、契約事務等）、市町（地域性を踏まえた検討）、大広（ワークショップ運営）と役割分担することで、時間を有効に活用できたこと。
- ✓ 県と市町がワークショップの中で一緒に考えることで、その場で情報やノウハウの共有が図れたこと。
- ✓ 国、専門家、委託事業者とも連携したバックアップ体制を構築することで、異なる多様な視点のノウハウ、意見や助言を得ながら進められたこと。
- ✓ 県としても、市町村の現場感や地域課題の違いを把握することで、広域的に対応すべき事業（結婚支援、企業連携、気運醸成など）の立案につながったこと。

今回の課題

進行・体制における課題

- ✓ プロジェクトの開始時期が6月からと遅く、また、各市町のスケジュール調整に苦労したことで、**とてもタイトなスケジュールでの検討（ホームワーク含む）**をお願いしてしまったこと。

➔ **採択に係るヒアリングや、スケジュール調整はできる限り前倒して実施**
- ✓ ワークショップの時間の関係上、地域の現状把握（イシューマップの作成）や事業アイデア・構想などが**現場で整理しきれなかった**こと。

➔ **特に重要な回は、必要な時間を確保した上で実施**
- ✓ 市町毎に**参加する部署や情報共有にバラつき**があったこと。（直接的に関係がない部署（雇用関係等）の意見も必要。）

➔ **人選時の丁寧な説明や、必要に応じて他部局も参加できる個別補習を実施**
- ✓ 予算化に当たっては関係部局や財政部局との調整が必要であり、**全ての事業が即予算措置にはならなかった**こと。

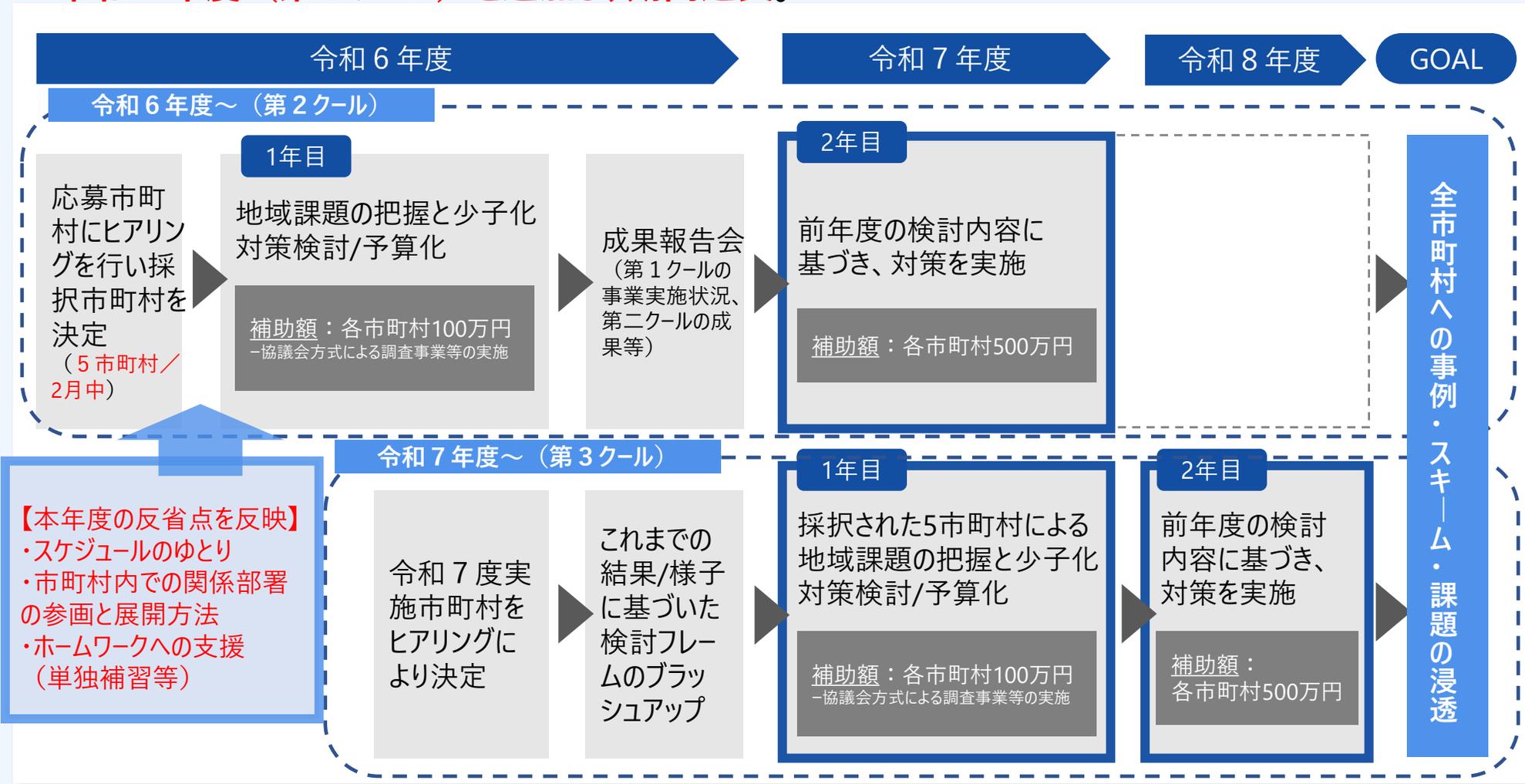
➔ **直ぐに予算化や実施できないものは、時間をかけて検討していくことも視野に置いて整理（関係部署が多い、事業規模が大きい、地元の合意が必要など）**

今後の展開

本年度（第1クール）参加5市町は、予算要求した事業を進行。

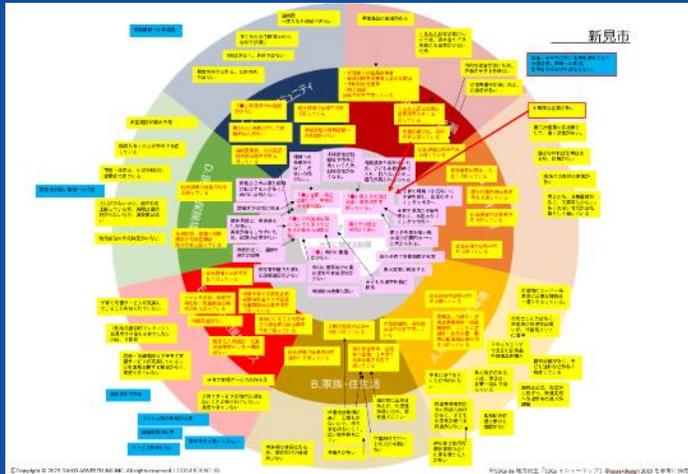
令和6年度（第2クール）は、新たに**高梁市、井原市、新見市、美作市、早島町**の5市町を採択。地域アプローチによる検討を行う。

令和7年度（第3クール）を追加し、期間延長。



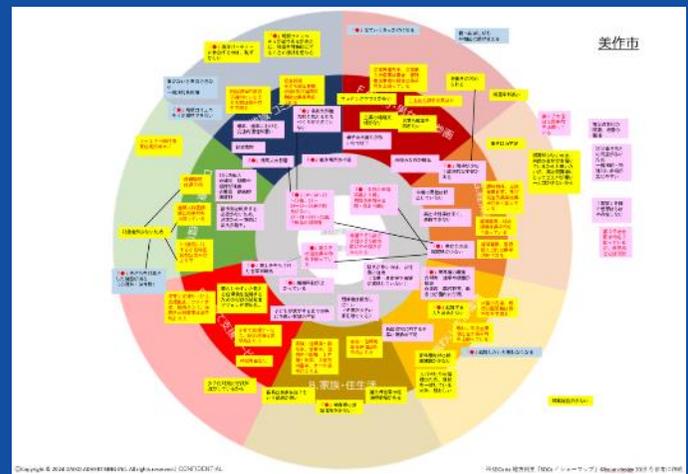
令和6年度の取組状況（DAY4まで実施済）②

新見市



新見市			
目指すべき地域の姿			
安心して出産・子育てのできる地域を目指す			
移住・定住	出会い・結婚	第一子出産	第二子以降出産
<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>20代前半が多い</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>男性の未婚率が低い</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>全国・県平均を下回っている</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>平均が高い</p>
<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>市内に仕事がない（特に高学歴）</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>未婚率が高い</p> <p>未婚率が高い</p> <p>結婚・離婚率が高い</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p> <p>・伊勢ヶ岡・赤松</p> <p>・伊勢ヶ岡・赤松</p> <p>・伊勢ヶ岡・赤松</p> <p>・伊勢ヶ岡・赤松</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p> <p>（特に高学歴）</p>
<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>新居で就業・生活しにくいのではないか</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>結婚相手と出会えない</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>リ・レ宅が少ない（高学歴）</p> <p>→子育てで不安につながる</p>
重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)

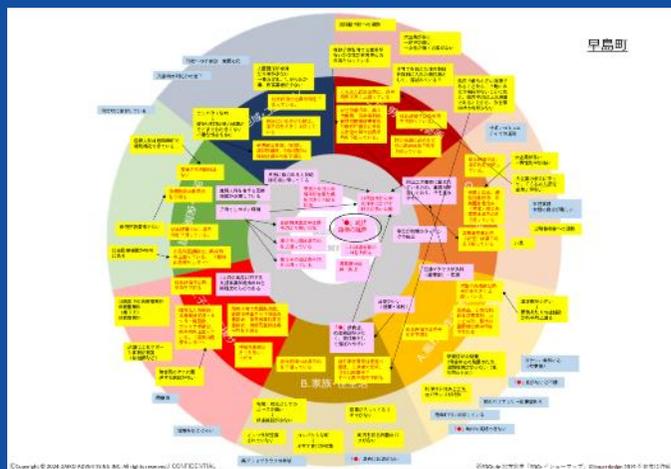
美作市



美作市			
目指すべき地域の姿			
移住・定住	出会い・結婚	第一子出産	第二子以降出産
<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>10-14・15-19歳が多い</p> <p>15-19・20-24歳で転出が多い</p> <p>20-24・25-29歳で転入が多い・割合が高い</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>女性の未婚率第一・低い</p> <p>男性の未婚率・全県・県平均</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>全国・県平均を上回る</p>	<p>関連する出生に繋がる指標の特徴</p> <p>県平均を下回っている</p>
<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>若年層が多い</p> <p>若年層が多い</p> <p>若年層が多い</p> <p>若年層が多い</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>結婚する人が少ない</p> <p>結婚する人が少ない</p> <p>結婚する人が少ない</p> <p>結婚する人が少ない</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p>	<p>関連する出生に繋がる要因となる指標の特徴</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p>
<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>若年層が多い</p> <p>若年層が多い</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>結婚相手と出会えない</p> <p>結婚相手と出会えない</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p>	<p>その結果もたらされる住居の不安</p> <p>子育て環境に不安を感じている人が多く見られる</p>
重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)	重視度 (○・●・△・×)

令和6年度の取組状況（DAY4まで実施済）③

早島町



美作市

早島町			
目指すべき地域の姿			
現状の出生・子育てに係る指標を長期的に維持・継続する			
移住・定住	出会い・結婚	第一子出産	第二子以降出産
関連する出生に繋がる指標の特徴 20歳～30歳の転入が多い	関連する出生に繋がる指標の特徴 男女ともに未婚率↓	関連する出生に繋がる指標の特徴 県平均と一致	関連する出生に繋がる指標の特徴 県平均を上回っている
関連する出生に繋がる原因となる指標の特徴 ・定住地として選ばれやすい ・都市近接かつ子育て環境が充実 (1枚区)	関連する出生に繋がる原因となる指標の特徴 ・独身者ではなく、結婚世帯の流入が多い	関連する出生に繋がる原因となる指標の特徴 ・1人目の出産に係る行政支援が他府県と同程度 ・県内の安定、近隣都市へのアクセス	関連する出生に繋がる原因となる指標の特徴 ・子育て支援の充実 ・産科（産科）の充実 ・1人目の出産年齢が若い
その結果としておこる生活の姿 ・環境が変えづらい ・地域が長く閉塞感がある	その結果としておこる生活の姿 ・若い世代が変えられる（暮らしやすい）環境でない	その結果としておこる生活の姿 ・特になし	その結果としておこる生活の姿 ・特になし
重視度 (●・○・△・×)	重視度 (●・○・△・×)	重視度 (●・○・△・×)	重視度 (●・○・△・×)

岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

野村 Mail : takamasa_nomura@pref.okayama.lg.jp

山形 Mail : shinsuke_yamagata@pref.okayama.lg.jp

岡山県岡山市北区内山下2-4-6 Tel : 086-226-7347